

2018年5月15日

各 位

会 社 名 第一生命ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 稲垣 精二
(コード番号：8750 東証第一部)

2018年3月期 決算補足資料（第一生命ホールディングス株式会社分）

2018年5月15日

第一生命ホールディングス 2018年3月期決算を発表

第一生命ホールディングス株式会社(社長: 稲垣 精二)は、5月15日に2018年3月期決算を発表しました。以下は、社長の稲垣からステークホルダーの皆さまへのメッセージです。

1. 2018年3月期決算について

- 国内生命保険事業では、お客さまニーズや経済環境等を踏まえた商品・チャネルミックスの戦略的シフトが進む。
- 株主還元原資となるグループ修正利益は2,432億円。株主配当を50円に引き上げ、390億円(上限)の自己株式取得を決議し、2018年3月期の総還元性向は40%を達成する見込み。
- 米国子会社プロテクティブは5月1日付で過去最大となる買収手続きを完了。

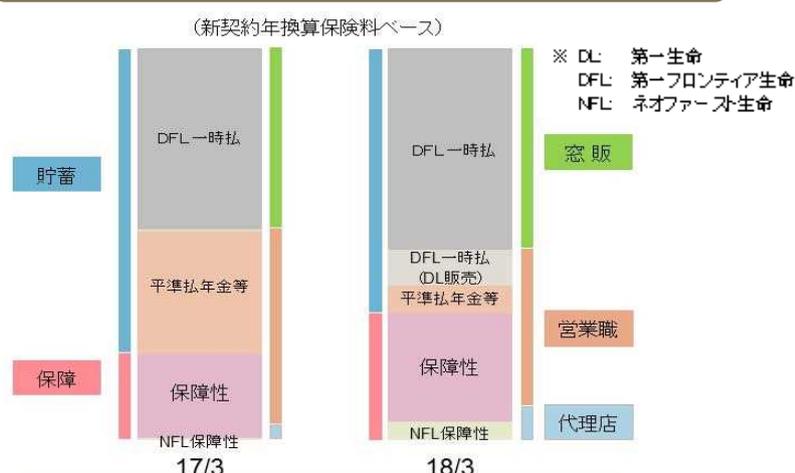
平素より、私ども第一生命グループをお引き立ていただき、ありがとうございます。

2018年3月期決算を踏まえ、ステークホルダーの皆さまにお伝えしたいことは上に挙げた3点です。国内生命保険事業では、第一生命による保障シフトに加え、経済環境やお客さまニーズの変化に応じた商品・チャネルミックスの戦略的シフトが進みました。

株主還元の原資となるグループ修正利益は2,432億円となりました。株主配当は一株あたり50円予想とし、期初予想の45円から5円引き上げ、前年比で7円増配としました。また、390億円(上限)の自己株式取得を決議しており、株主配当とあわせて総還元性向は40%に達する見込みです。

最後に、米国子会社のプロテクティブが現

図1. 国内でマルチブランド・マルチチャネルを推進

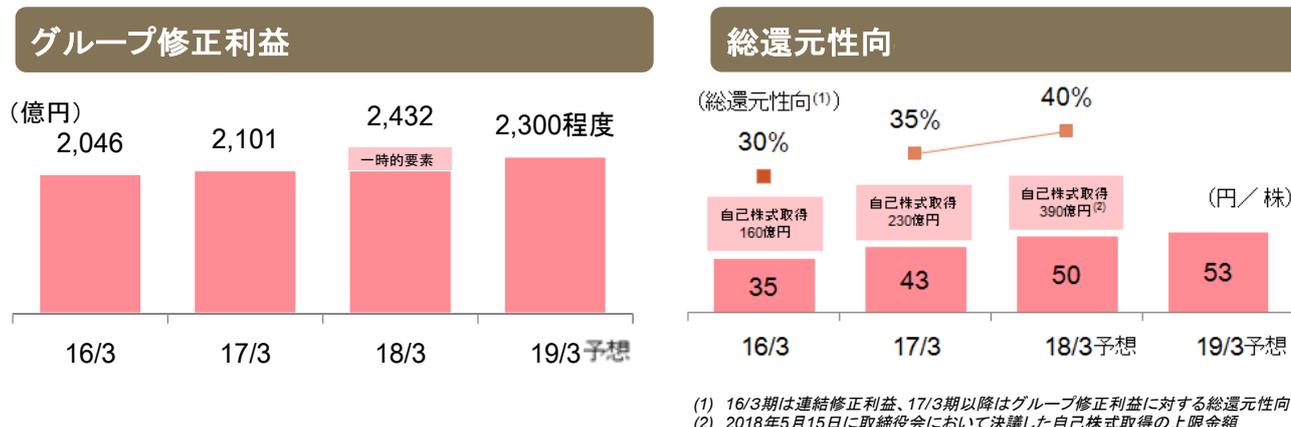


第一生命は保障シフトにより新契約価値を拡大

	17/3期	18/3期
新契約年換算保険料に占める保障シフト商品占率	41%	80%
新契約価値	1,110億円	1,490億円

地5月1日にリリースしていますとおり、米国リバティライフ社の個人保険・年金の既契約ブロックを再保険形式により買収する手続きを同日付で完了しています。

図2. 総還元性向 40%を達成見込み



今回の決算のポイントを以下の3点にまとめました。

第一に、営業業績についてです。第一生命では、主力の保障性商品の販売が増加し、新契約年換算保険料に占める保障性商品の占率は約8割に達しました。また根強い貯蓄ニーズに応え、第一フロンティア生命が商品改定や新商品投入を行った結果、販売量が大きく増加しました。第一生命の営業職による第一フロンティア生命の商品販売も本格化し、第4四半期にはネオファースト生命の経営者向け保険を代理店チャネルで販売するなど、国内生保3社による環境に応じたマルチブランド・マルチチャネル体制が本格化しました。海外でも各国で新契約が順調な伸びを見せました。

第二に、連結業績についてです。前年比で増収・増益となりました。中でも第一生命は内外金融経済環境の改善等に伴い、前年比 45%の増益となりました。また米国の法人税減税に伴う一時的利益や、アセットマネジメント事業の再編にかかる株式交換益など、一時的要素を計上した結果、連結純利益は同 57%の大幅増益となりました。

第三に、通期業績予想についてです。一時的要素の剥落により、減収・減益を見込みますが、外部環境により変動する要素を除いたグループ修正利益は 2018 年3月期の一時的要素を除いた 2,100 億円から増益となる 2,300 億円程度を見込んでおり、株主配当も 3 円増配を予想しています。

2. 中期経営計画「CONNECT 2020」

第一生命グループの強みを活かし、あらゆるステークホルダーとのつながりを強化し、QOL 向上につながる商品・サービスを提供し、企業価値創造につなげていく

3月29日のプレスリリースにて、2020年度に向けた新しい中期経営計画「CONNECT 2020」を発表しました。人口動態の変化や技術革新により、お客さまのニーズが多様化・高度化しているのはもちろん、異業種による保険事業

参入など、業界の垣根を越えた競争が激化しようとしています。こうした時代にあって、百年を超える歴史の中で築き上げた第一生命グループの強みを活かしながら、「お客さま」「社会」「多様なビジネスパートナー」「グループ会社」とのつながりをさらに強化することで、これまでの保険ビジネスの枠組みを超え、あらゆる人々の自分らしい Quality of Life(QOL)の向上につながる商品・サービスを提供する、そのサイクルを通じて企業価値創造につなげていくことが、変化の時代にあって持続的な成長を実現する鍵ではないかとの結論に至りました。この「つながり (CONNECT)」が中計のコンセプトになります。

中期経営計画で目指すもの

具体的には「国内生命保険事業」「海外生命保険事業」「資産運用・アセットマネジメント事業」という3つの成長エンジンを強化していくための重点取組を実施し、3つの成長エンジンを支える仕組みとしてイノベーションの創出、ERM強化、ダイバーシティ&インクルージョンを推進します。これにより、グループ修正利益は年率換算で5～7%の成長を実現し、2020年度には2,500億円を目指します。また中計期間を超えて成果につながる施策も踏まえ、5～7%の成長は中長期に実現可能と考えており、オーガニックに3,000億円を目指していくこととなります。

		項目	目標値
経営目標 (計数目標)	会計利益	グループ修正利益	2020年度 2,500億円程度
	将来利益 (経済価値)	グループ新契約価値	2020年度 2,300億円程度
		項目	中長期的に目指す水準
中長期的に 目指す姿	資本効率	EV成長率(ROEV)	中長期的に 平均8%成長 を目指す
	健全性	資本充足率 (経済価値)	中長期的な時間軸で 170～200%到達 を目指す

国内生命保険事業の取組み ～ マルチブランド・マルチチャネルを推進

国内生命保険事業では、3生保が独立して個々のチャネルで商品・サービスを提供するのではなく、3生保による商品・サービスの相互活用(マルチブランド・マルチチャネル)を進めることで、3社全体で新契約価値の拡大を目指し、一方で成長に向けた資源投下や効率化に向けた取組みも本格化させます。

【商品・サービス面での取組み】

3月22日に発表した第一生命の新商品「ジャスト」はこの中期経営計画のコンセプトをベースに開発された商品です。商品を自在に組み合わせ、お客さま一人ひとりのニーズにぴったりな保障を提供することが可能な商品構成となっています。また健康な人だけでなく、健康増進に取り組む人を幅広く応援するため、当社が取り組む InsTech の

技術を基盤として、お客さまの健康取組みを支える「健診割」特約を導入しました。

あわせて健康増進をサポートする無料のスマートフォンアプリ「健康第一」に新たな機能を搭載しました。第一生命は国立がん研究センターなど5つの医療機関と包括連携協定を結んでおり、共同研究を通じて、健康診断書から「がん」「脳卒中」「脳梗塞」「心筋梗塞」「糖尿病」の将来の発症リスクを見える化する機能を開発し、アプリに搭載しています。これは本邦生保業界初のサービス提供となります。

【チャンネル面での取組み】

～ 新商品・サービスの提供を開始しました ～

第一生命の営業職はより高度なコンサルティングをお客さまに提供すべく、教育プログラムを受けていますが、そうした営業職がお客さまの貯蓄ニーズに応えるため、第一フロンティア生命が開発した一時払貯蓄性保険商品の販売を本格化しています。また、代理店チャンネルの拡充にも取り組んでおり、ネオファースト生命が3月に販売開始した経営者向けの保険についても、第一生命の代理店チャンネルを通じた販売を開始しました。引き続き、お客さまのニーズの変化に応じて新しい商品を開発し、販売量を伸ばしています。

～ パートナーシップを広げ、販売チャンネルを強化しました ～

さらにチャンネル面での新規の取組みとして、4月16日には第一生命が乗合保険募集代理店を展開するアルファコンサルティングの株式を100%取得し、子会社化しました。複数の保険商品を比較して加入したいというお客さまニーズの変化を踏まえ、代理店チャンネル向けの商品・サービスの開発などノウハウ共有を行っていきます。

さらに、4月23日には第一生命ホールディングスと楽天生命保険が業務提携で合意しました。楽天市場の出店企業に向けてネオファースト生命が商品を開発し、楽天生命の営業組織がご紹介・ご提案をするスキームです。また楽天グループと第一生命グループの有するリソースやつながりを活かし、新たな商品・サービスの開発に向けた共同研究を検討しています。

海外生命保険事業・アセットマネジメント事業の取組み ～ つながりを強化しグループシナジーを追求

海外生命保険事業では、第一生命ベトナムの知見を活かしたメコン地域への展開、資産運用・アセットマネジメント事業でも、アセットマネジメントOneとジャナス・ヘンダーソンによる商品の相互供給の加速やアセットマネジメント会社と保険会社による新たな商品開発等、グループ内のシナジーを発揮した新たなチャレンジも展開していく予定です。

3. 最後に

第一生命グループは事業環境が大きく変わる中でも一貫して社会課題の解決を通じた価値創造を目指し、自らが大きく変革することで成長の加速を実現してきました。その成果の一側面として、上場当初の利益水準は数百億であったものが、1,000億円、2,000億円へと非連続の拡大を実現してきました。新中計「CONNECT 2020」期間中の

グループの成長はこれまでのような「事業基盤の拡大・分散フェーズ」から、「グローバルな事業基盤を活かした各事業のオーガニック成長フェーズ」を軸としつつ、さらなる事業基盤の拡大にも挑戦する新たなフェーズに移行しますが、大きな時代の変化を成長の機会と捉え、持続的成長の実現につながる各種戦略を、スピード感を持って遂行することで、更なる企業価値を創造したいと考えています。今後とも皆さまのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

(決算の詳細につきましては、次頁からの解説をご覧ください。)

《2018年3月期 決算解説》

第一生命グループ業績ハイライト

	17/3期	18/3期 (a)	前年比		2018/2/14 発表予想(b)	
						達成率 (a/b)
連結経常収益	64,567	70,378	+ 5,810	+ 9%	67,150	105%
連結経常利益	4,253	4,719	+ 466	+ 11%	4,720	100%
連結純利益 ^(注)	2,312	3,639	+ 1,326	+ 57%	3,510	104%

(注) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

1. 連結業績ハイライト

連結経常収益は、前年比 5,810 億円の増加となりました。第一生命では貯蓄性商品の販売を抑制した結果、保険料収入が減少しましたが、その他グループ会社の保険料収入は好調な営業業績を反映して増加しました。

連結経常利益は、同 466 億円の増加となりました。第一生命は順ざや、キャピタル損益ともに改善を見せ、前年比で大幅増益となりました。第一フロンティア生命では前年の金利上昇に伴う市場価格調整の影響の反動減等を要因として小幅減益となりましたが、会社予想を大きく上回る水準での着地となりました。海外生保事業も、前年に発生した特殊要因による利益押上げ効果の剥落等により減益となりましたが、ほぼ想定内の着地です。

親会社株主に帰属する当期純利益(連結純利益)は、同 1,326 億円の増加となりました。第一生命の増益に加え、ジャナス・キャピタルとヘンダーソン・グループの合併に係る株式交換益が税引前・税引後ともに 335 億円となり、前年に計上したアセットマネジメントOneの再編に係る持分変動益 124 億円を上回ったこと、米国法人税減税に伴いプロテクティブが一時的利益 901 億円を計上したことなどが主な要因です。

株主還元の原因として「グループ修正利益」を定義しています。主要子会社・関連会社において、キャッシュの裏付けのない評価損益等を調整したものを修正利益とし、その合計がグループ修正利益となります。いずれも税引後換算で調整しています。連結当期純利益からグループ修正利益への調整は、連結調整における「のれん償却額」が主な加算項目で、第一フロンティア生命における「市場価格調整関連損益」、プロテクティブにおける法人税減税の影響、連結調整における「株式交換益」が主な控除項目です。この結果、グループ修正利益は前期の 2,101 億円から増加して 2,432 億円となりました。

第一生命グループ各社の業績

	【第一生命】 ⁽¹⁾ (億円)			【第一フロンティア生命】 (億円)			【米プロテクトティブ】 ⁽²⁾ (百万米ドル)			【豪TAL】 ⁽²⁾ (百万豪ドル)			【連結】 (億円)		
	17/3期	18/3期	前期比	17/3期	18/3期	前期比	17/3期	18/3期	前期比	17/3期	18/3期	前期比	17/3期	18/3期	前期比
経常収益	39,467	37,919	△4%	11,832	18,094	+53%	8,873	9,772	+10%	3,574	3,769	+5%	64,567	70,378	+9%
経常利益	2,818	3,588	+27%	637	608	△5%	594	435	△27%	211	199	△6%	4,253	4,719	+11%
純利益 ⁽³⁾	1,171	1,699	+45%	502	370	△26%	393	1,106	+182%	148	128	△13%	2,312	3,639	+57%

(1) 2016年10月1日の持株会社体制への移行に伴い、2017年3月期については、2016年4月～9月の【旧】第一生命と分割準備会社の数値、2016年10月～2017年3月の【現】第一生命の数値を合算して記載しています。

(2) 米プロテクトティブおよび豪TALの数値は、各国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しています。連結の際には、それぞれ1米ドル=116.49円(17/3期)、113.00円(18/3期)、1豪ドル=85.84円(17/3期)、81.66円(18/3期)で円換算しています。

(3) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

2. グループ各社の業績

(1) 第一生命

第一生命では貯蓄性商品の販売を抑制した結果、保険料収入が減少しましたが、一方で内外金融経済環境改善を受けた利息配当金収入の増加等や環境に応じた投資行動等により運用収支が改善し、増益に転じました。

(2) 第一フロンティア生命

第一フロンティア生命は商品改定・新商品投入に加え、グループ内外で販売チャネルを拡充し、保険料収入の増収ペースが加速しています。販売増による保有契約の積み上がりとともに、事業利益は改善しています。市場価格調整に係る損益は、2016年末の金利上昇を受け前年の収益を大きく押し上げていましたが、今期は金利上昇が比較的小幅にとどまったため、前年比で収益を押し下げています。また外貨建商品の販売増加に伴う危険準備金の繰入増加と、前年度の期中から税務上の繰越欠損金を解消し、法人税支払が増加したこと等から減益となりました。

(3) プロテクトティブ

営業業績については、各セグメントで概ね堅調に推移しています。生保事業では、ユニバーサル保険の好調な販売が続いています。年金事業では、金融商品の販売に係る規制動向を踏まえ独立代理人が販売に慎重になった影響で、変額年金の伸び悩みが続いています。

税引前営業利益は前年比微増となりました。ステーブル・バリュー事業で受託残高が増加、運用収支も改善したことに加え、生保事業などで将来利益の推計前提を見直した結果、前年比で繰延新契約費用のアンロッキングの影響が改善したことなどがプラスの影響を及ぼしています。買収事業では保有契約の減少に伴い減益、年金事業も支払い対象契約が増加したことから減益となりましたが、全体としては増益基調となりました。

当期利益は、法人税減税を受け繰延税金負債を再評価した結果、一時的利益として797.6百万ドルが計上されたため、大幅増益となりました。

(4) TAL

オーストラリア市場では大規模な業界再編が続いており、一部で価格競争が見られ、個人保険の新契約が伸び悩んでいます。団体保険で第1四半期に複数の契約を獲得したことで、保有契約年換算保険料は、前期末比で7%増となりました。

保有契約の積み上がりに応じて保険料等収入は前年比 8%増となり、経常収益の増加につながっています。オーストラリアの経済環境を背景に、所得補償保険などの支払は引き続き注視すべき水準で推移していますが、料率改定やコスト削減努力等により、基礎的収益力は同2%の増益を達成しました。しかし当期純利益は、運用収益が前年を下回ったこと等により、同 13%減益となりました。

3. グループ営業業績

グループの契約業績について年換算保険料をベースに説明します。

第一生命の新契約は、一時払終身保険の販売停止や平準払個人年金の販売減少により二桁の減少となりましたが、昨年4月の料率改定に併せて実施した商品性の改定や営業職の評価基準の調整の効果が現れ、第三分野等、保障性主力商品の販売は好調でした。第一フロンティア生命は、外貨建年金に係る商品改定や新商品の導入効果に加え、第一生命の営業職による好調な販売を背景に、新契約は二桁の伸びとなりました。ネオファースト生命は3月に法人向け商品を第一生命の代理店網に投入した結果、販売を大幅に伸ばしました。

3月下旬から販売を開始した第一生命の「ジャスト」については、ほぼ想定通りの販売が続いています。

海外生命保険事業について、プロテクティブは、変額年金の販売は伸び悩んでいるものの、料率改定により定額年金の販売が拡大しました。TAL は、個人保険事業では競合他社の保険料率引下げ等を背景として、一部商品の販売が減速していますが、団体保険事業で複数の契約を獲得したため、新契約は高い伸びを見せています。第一生命ベトナムも個人代理人の販売好調に加え、提携チャネルの貢献も高まり、好調が続いています。

新契約年換算保険料				保有契約年換算保険料		
	17/3期	18/3期	前年比	(億円)		
				17/3末	18/3末	前期末比
第一生命	1,961	1,112	▲ 43.3%	21,472	21,458	▲ 0.1%
うち第三分野	602	732	+ 21.5%	6,063	6,479	+ 6.9%
第一フロンティア生命	1,741	1,934	+ 11.1%	7,127	7,300	+ 2.4%
ネオファースト生命	15	147	+ 823.9%	53	196	+ 267.5%
プロテクティブ ⁽¹⁾	353	366	+ 3.7% (+ 6.9%)	5,107	4,981	▲ 2.5% (+ 0.5%)
TAL	218	322	+ 47.5% (+ 55.0%)	2,290	2,352	+ 2.7% (+ 8.0%)
第一生命ベトナム ⁽¹⁾	116	181	+ 56.3% (+ 59.4%)	283	422	+ 49.1% (+ 52.1%)
第一生命グループ計	4,407	4,064	▲ 7.8%	36,334	36,711	+ 1.0%

為替変動
要因を
除くと
▲ 7.1%

為替変動
要因を
除くと
+ 1.8%

(1) 米プロテクティブ、第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。

4. ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに対して「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

第一生命のソルベンシー・マージン比率は、881.8%となりました。株価上昇等を背景に含み益が増加し、前期末の850.5%から上昇、十分な財務基盤と健全性を確保しています。第一生命ホールディングスの連結ソルベンシー・マージン比率は、838.3%でした。

5. グループ・エンベディッド・バリュー

【第一生命グループ】

(億円)

	17/3末	18/3末	増減
グループEEV	54,954	60,941	+5,987

エンベディッド・バリュー(EV)とは、生命保険会社の企業価値を表す指標の一つであり、過去に実現した利益の蓄積額と、保険契約の保有により生じる将来利益の見積り額の合計です。

2018年3月末の第一生命グループのエンベディッド・バリューは約6兆円となりました。新契約の獲得に加え、内外株価の上昇等の金融環境の改善により、2017年3月末の5.4兆円から約6,000億円の増加となりました。

6. 業績予想

2019年3月期は減収・減益を予想しています。

主な要因は、第一生命における運用収支や、プロテクティブの法人税減税の影響、ジャナス・ヘンダーソンの株式交換益など2018年3月期に計上された一時的増益要因の反動減を予想しているためです。第一フロンティア生命については、最低保証リスク関連損益やMVA関連損益など金融経済環境に応じて変動する項目について前年からの反動を織り込んでいます。一方、海外生命保険事業は減税や買収の効果、好調な営業業績を背景に増益を予想しています。

減益決算ですが、株主還元原資であるグループ修正利益は、外部環境により変動する要素を除いたベースである2,100億円^(注)から2,300億円程度へ増益を予想しています。これを背景に1株当たり株主配当については3円増配の53円を予想しています。

(注) 2018年3月期のグループ修正利益2,432億円のうち、金融経済環境によって変動する要素である投信の運用に係る配当金や解約益などを除いた数値です。

連結業績予想

	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (予想)	増減
			(億円)
経常収益	70,378	64,290	△6,088
経常利益	4,719	4,140	△579
純利益	3,639	2,200	△1,439
グループ修正利益	2,432	2,300程度	△132
			(円)
1株当たり 純利益	310.69	188.87	△121.82
1株当たり 期末配当金	50	53	+3

(※) 本表における純利益とは、親会社株主に帰属する当期純利益をさします。また、1株当たり純利益の計算に際しては、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式及び自己名義株式を除いています。

(要約)連結損益計算書・連結貸借対照表

(億円)

	17/3期	18/3期	増減
経常収益	64,567	70,378	+5,810
保険料等収入	44,687	48,845	+4,158
資産運用収益	16,261	18,026	+1,764
うち利息・配当金等収入	11,077	11,973	+895
うち有価証券売却益	2,237	2,367	+129
うち特別勘定資産運用益	1,157	1,274	+117
その他経常収益	3,618	3,506	△112
経常費用	60,314	65,658	+5,343
うち保険金等支払金	36,183	37,899	+1,715
うち責任準備金等繰入額	10,167	12,238	+2,071
うち資産運用費用	3,421	5,489	+2,068
うち有価証券売却損	942	1,159	+216
うち有価証券評価損	271	47	△224
うち金融派生商品費用	294	789	+494
うち為替差損	737	2,452	+1,715
うち事業費	6,509	6,611	+101
経常利益	4,253	4,719	+466
特別利益	174	341	+166
特別損失	474	344	△130
契約者配当準備金繰入額	850	950	+100
税金等調整前当期純利益	3,103	3,767	+663
法人税等合計	790	128	△662
非支配株主に帰属する当期純利益	0	-	△0
親会社株主に帰属する当期純利益	2,312	3,639	+1,326

(億円)

	17/3末	18/3末	増減
資産の部合計	519,858	536,030	+16,171
うち現預金・コール	9,804	10,558	+754
うち買入金銭債権	1,982	1,951	△31
うち有価証券	436,509	449,169	+12,659
うち貸付金	35,666	34,876	△789
うち有形固定資産	11,384	11,305	△78
うち繰延税金資産	1	12	+10
負債の部合計	488,485	498,537	+10,051
うち保険契約準備金	446,941	455,137	+8,196
うち責任準備金	437,402	445,977	+8,574
うち社債	9,897	9,689	△208
うちその他負債	18,520	19,981	+1,461
うち退職給付に係る負債	4,215	4,131	△83
うち価格変動準備金	1,746	1,957	+211
うち繰延税金負債	3,244	3,578	+333
純資産の部合計	31,372	37,492	+6,120
うち株主資本合計	13,007	15,896	+2,888
うちその他の包括利益累計額合計	18,352	21,583	+3,230
うちその他有価証券評価差額金	19,060	22,381	+3,320
うち土地再評価差額金	△175	△124	+51

(注) 以下の項目については、責任準備金の戻入/繰入や関連する資産の含み益/損等と相殺されるものを含みます。益又は損が発生してはいますが、業績に大きな影響を与えるものではありません。

- ・特別勘定資産運用益/損
- ・為替差益/損
- ・金融派生商品収益/費用

《本資料の問い合わせ先》

第一生命ホールディングス株式会社

経営企画ユニット IR グループ

電話：050-3780-6930

免責事項

本資料の作成にあたり、第一生命ホールディングス株式会社（以下「当社」という。）は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

2018年3月期 決算報告

2018/5/15

第一生命ホールディングス株式会社



Dai-ichi Life
Holdings



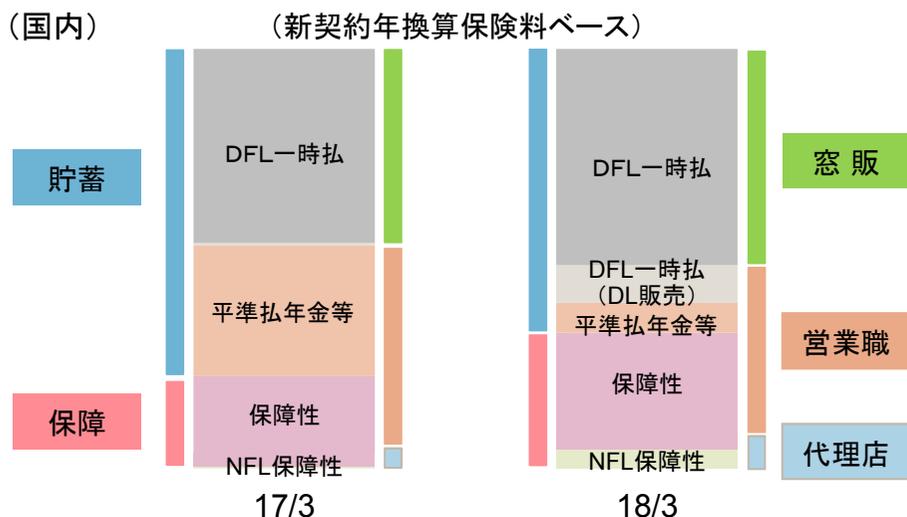
連結業績



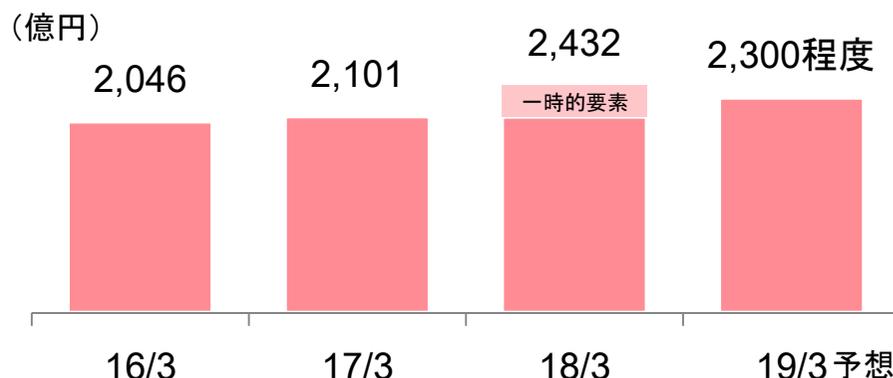
第一生命グループ業績 - 決算ハイライト

- 国内では経済環境・お客さまニーズの変化を踏まえマルチブランド・マルチチャネルを推進。
- グループ修正利益の改善を背景に株主還元を強化、総還元性向40%を実現見込み。

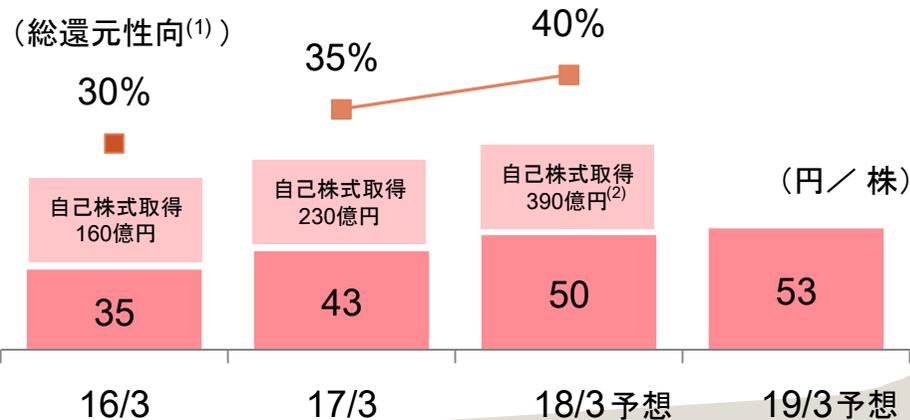
マルチブランド・マルチチャネルを推進



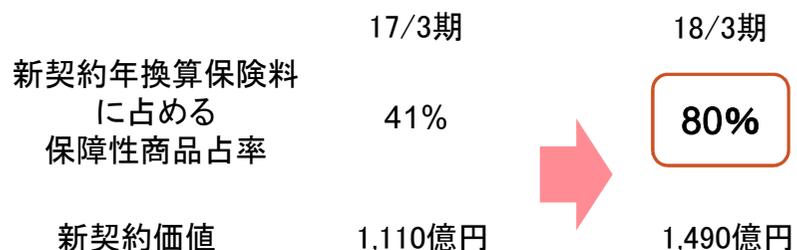
グループ修正利益



総還元性向40%を実現



第一生命は保障シフトにより新契約価値を拡大



(1) 16/3期は連結修正利益、17/3期以降はグループ修正利益に対する総還元性向
 (2) 2018年5月15日に取締役会において決議した自己株式取得の上限金額

- 国内生保事業の営業業績は、第一生命の保障性商品の販売が伸展。第一フロンティア生命、ネオファースト生命は想定を上回り、海外生保事業も各社順調。
- 連結業績は増収・増益。第一生命は、運用環境の改善等を背景に利息配当金収入等が増加。連結純利益は、米国の法人税減税に伴うプロテクティブの一時的利益(グループ修正利益からは控除)もあり、大幅に増加。
- 19/3期は減収・減益を予想。主な要因は金融経済環境に応じて変動する経常収益項目や18/3期に計上された一時的要素の剥落によるもの。グループ修正利益は実質増益を見込み、一株当たり配当金も増配を予想。

第一生命グループ業績 - 契約動向



Dai-ichi Life Holdings

新契約年換算保険料

	17/3期	18/3期	前年比
第一生命	1,961	1,112	▲ 43.3%
うち第三分野	602	732	+ 21.5%
第一フロンティア生命	1,741	1,934	+ 11.1%
ネオファースト生命	15	147	+ 823.9%
プロテクティブ ⁽¹⁾	353	366	+ 3.7% (+ 6.9%)
TAL	218	322	+ 47.5% (+ 55.0%)
第一生命ベトナム ⁽¹⁾	116	181	+ 56.3% (+ 59.4%)
第一生命グループ計	4,407	4,064	▲ 7.8%

為替変動
要因を
除くと
▲ 7.1%

保有契約年換算保険料

(億円)

	17/3末	18/3末	前期末比
	21,472	21,458	▲ 0.1%
	6,063	6,479	+ 6.9%
	7,127	7,300	+ 2.4%
	53	196	+ 267.5%
	5,107	4,981	▲ 2.5% (+ 0.5%)
	2,290	2,352	+ 2.7% (+ 8.0%)
	283	422	+ 49.1% (+ 52.1%)
	36,334	36,711	+ 1.0%

為替変動
要因を
除くと
+ 1.8%

(1) 米プロテクティブ、第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。

上段は円換算、下段は現地通貨建の変化率

第一生命グループ業績 - 連結主要業績



Dai-ichi Life
Holdings

(億円) <参考>

	17/3期	18/3期 (a)	前年比		2018/2/14 発表予想(b)	達成率 (a/b)
連結経常収益	64,567	70,378	+ 5,810	+ 9%	67,150	105%
第一生命	39,467	37,919	△ 1,548	△ 4%	36,630	104%
第一フロンティア生命	11,832	18,094	+ 6,261	+ 53%	17,230	105%
プロテクティブ (百万米ドル) ⁽¹⁾	8,873	9,772	+ 899	+ 10%	8,710	112%
TAL (百万豪ドル) ⁽¹⁾	3,574	3,769	+ 195	+ 5%	3,760	100%
連結経常利益	4,253	4,719	+ 466	+ 11%	4,720	100%
第一生命	2,818	3,588	+ 770	+ 27%	3,850	93%
第一フロンティア生命	637	608	△ 28	△ 5%	290	210%
プロテクティブ (百万米ドル)	594	435	△ 159	△ 27%	460	95%
TAL (百万豪ドル)	211	199	△ 11	△ 6%	180	111%
連結純利益⁽²⁾	2,312	3,639	+ 1,326	+ 57%	3,510	104%
第一生命	1,171	1,699	+ 527	+ 45%	1,850	92%
第一フロンティア生命	502	370	△ 131	△ 26%	170	218%
プロテクティブ (百万米ドル)	393	1,106	+ 713	+ 182%	1,110	100%
TAL (百万豪ドル)	148	128	△ 19	△ 13%	130	99%

(1) 米プロテクティブおよび豪TALの数値は、各国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しています。連結の際には、それぞれ1米ドル=116.49円(17/3期)、113.00円(18/3期)、1豪ドル=85.84円(17/3期)、81.66円(18/3期)で円換算しています。

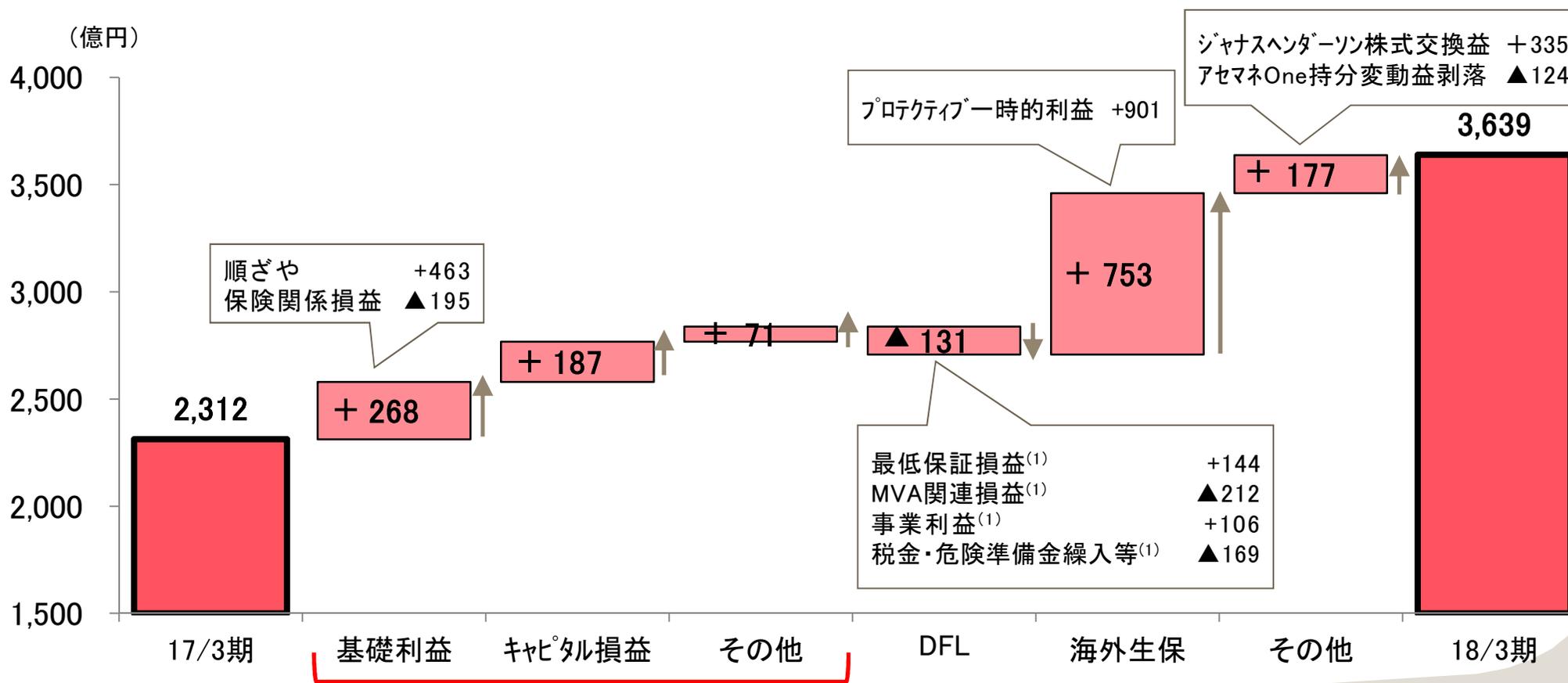
(2) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

(3) 2016年10月1日の持株会社体制への移行に伴い、第一生命の損益計算書の2017年3月期については、2016年4月～9月の【旧】第一生命と分割準備会社の数値、2016年10月～2017年3月の【現】第一生命の数値を合算して記載しています。



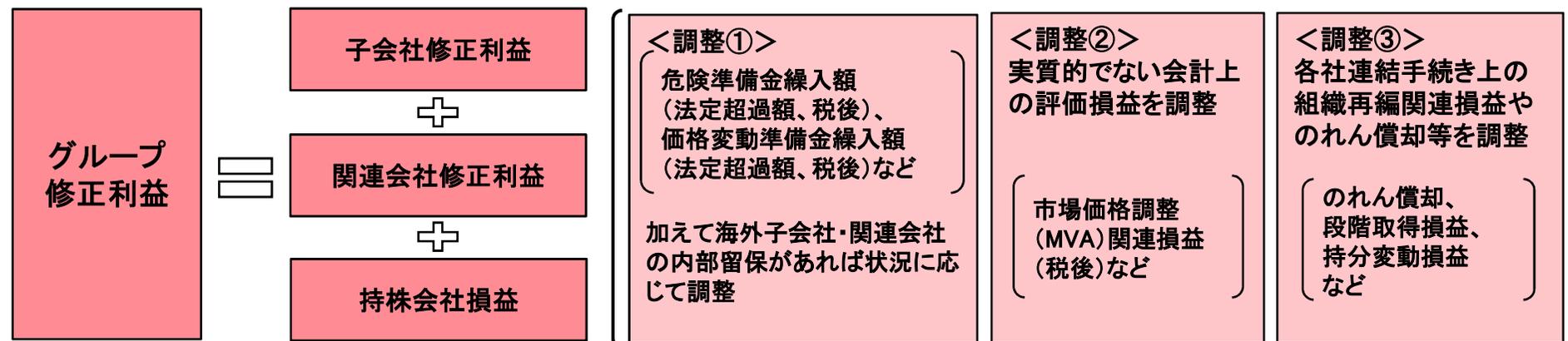
第一生命グループ業績 - 連結純利益変動要因

- 金融経済環境改善を背景に第一生命における利息配当金収入やキャピタル損益等が増加。
- 米国の法人税減税に伴うプロテクティブの一時的利益、アセットマネジメント事業の再編に係る利益の計上により前年比大幅増。



(1) 税引前の金額を記載しています。

第一生命グループ業績 - グループ修正利益



	17/3期	18/3期
連結当期純利益	2,312	3,639
(子会社調整)		
第一生命: 危険準備金繰入額の法定超過額	+ 129	-
第一生命: 市場価格調整に係る損益の調整	△ 2	△ 0
第一フロンティア生命: 市場価格調整に係る損益の調整	△ 270	△ 79
プロテクティブ: 法人税減税の影響	-	△ 901
(連結調整)		
のれん償却額	+ 56	+ 70
持分変動益・株式交換益	△ 124	△ 335
その他	△ 0	+ 39
グループ修正利益	2,101	2,432

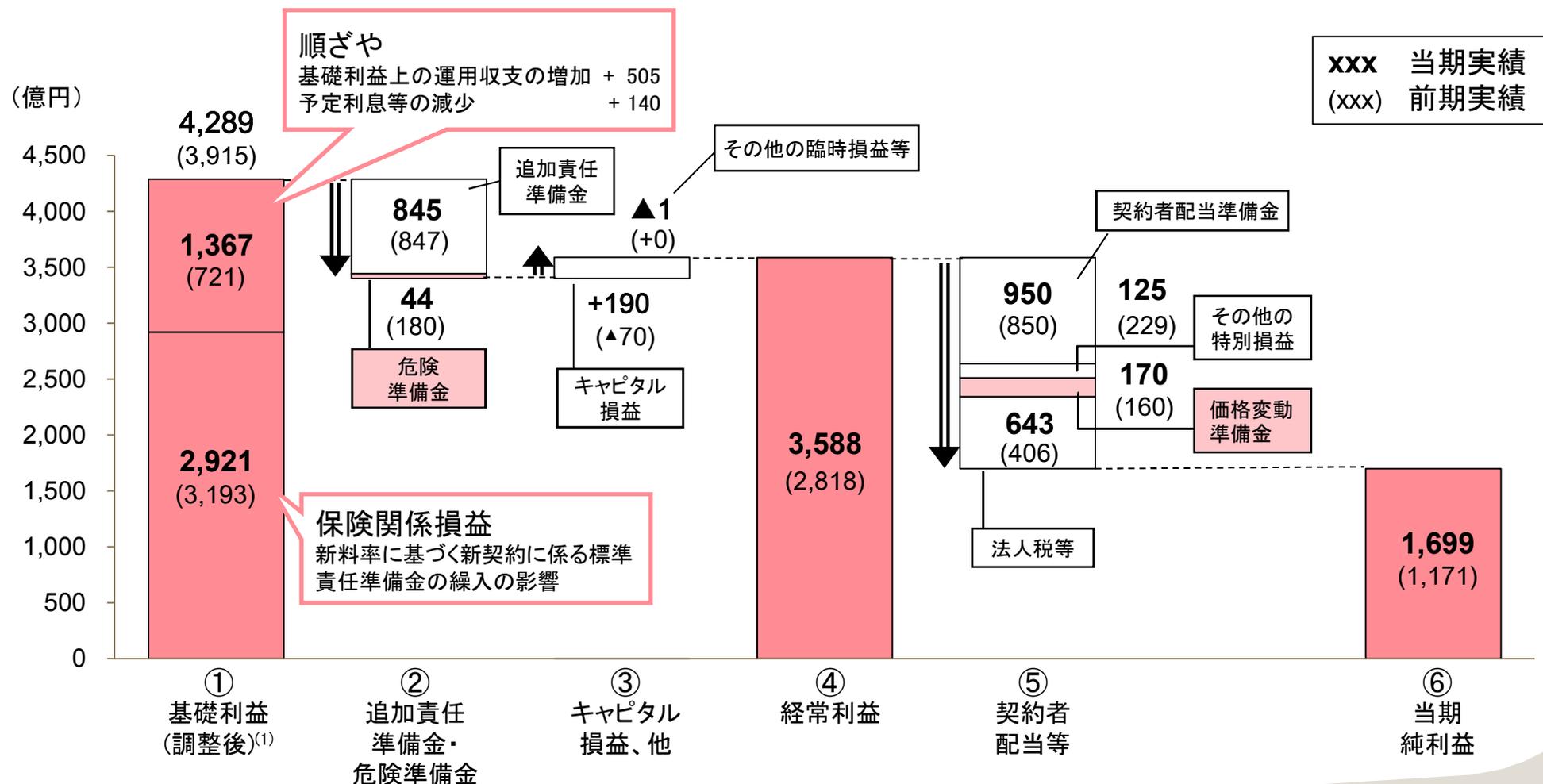


国内生命保険事業



第一生命業績 - 基礎利益～当期純利益の状況

■ 円安による利息配当金収入の増加、株高による投信分配金・解約益等の計上により順ざやは大幅に改善。

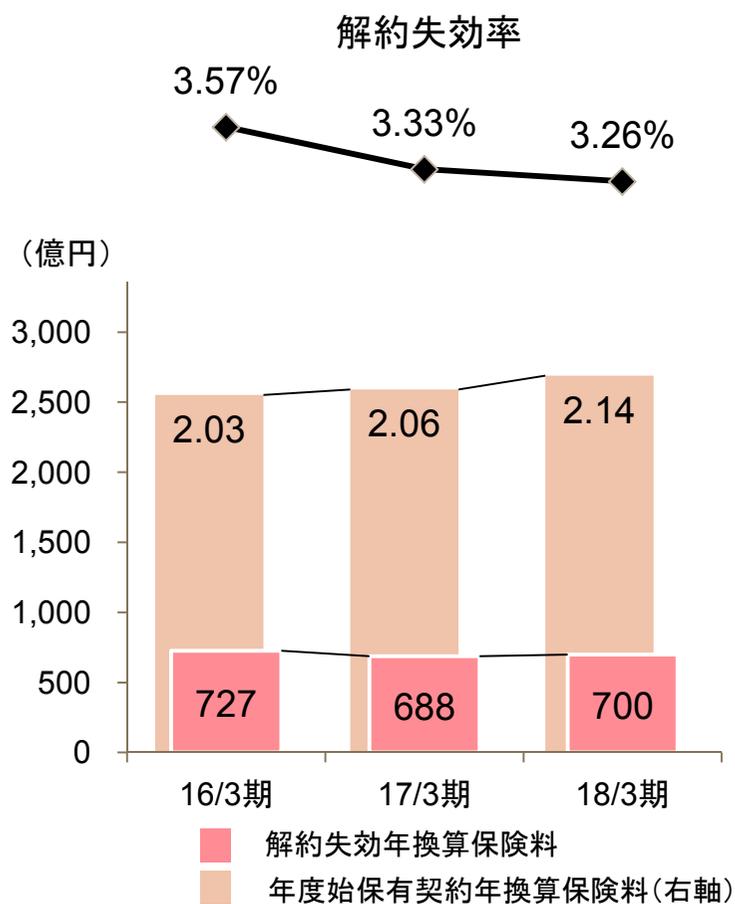


(1) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額保険の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額
なお、2017年度より、調整前の基礎利益から、市場価格調整(MVA)に係る責任準備金の影響及び外貨建て保険契約に係る市場為替レート変動の影響を除いています。



第一生命業績 - 解約失効、営業職数および生産性

年換算保険料ベース解約失効 (個人保険・個人年金)

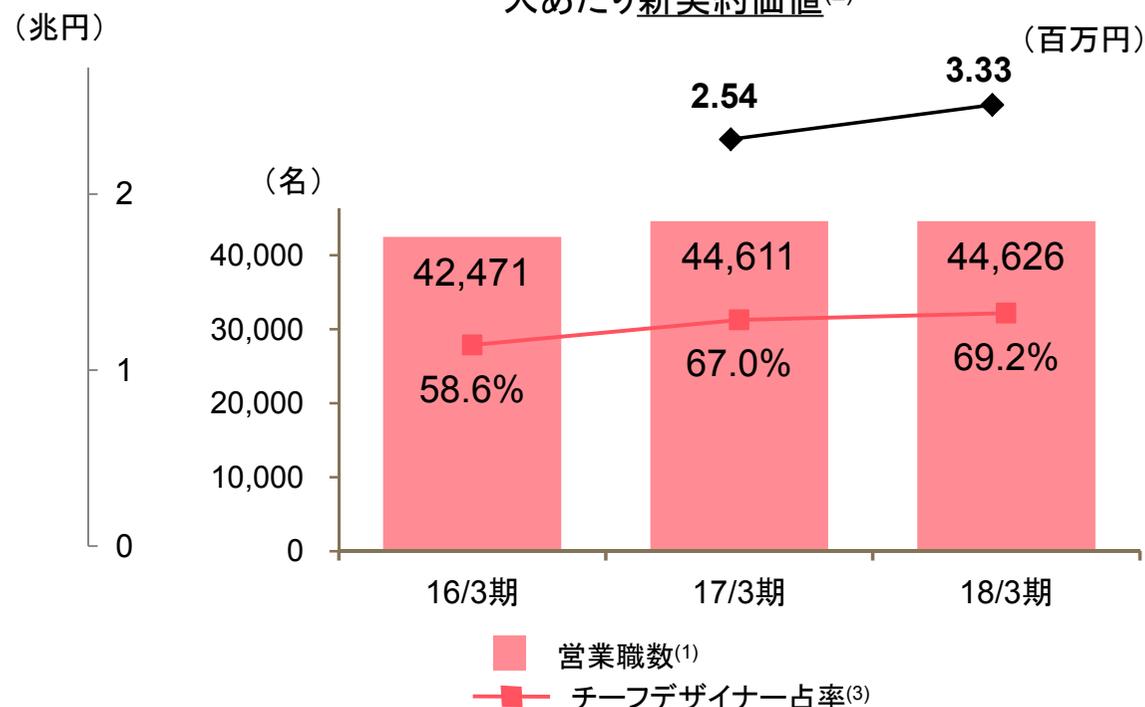


営業職数および生産性

一人あたり営業収益価値⁽²⁾



一人あたり新契約価値⁽²⁾

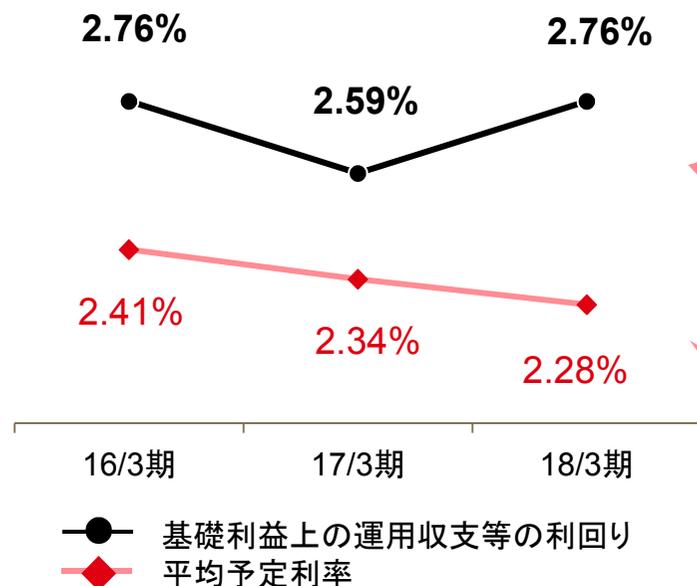


(1) 営業職については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております。
 (2) 各期間における新契約価値及び営業収益価値を分子、各期間の営業職数(補助的業務に従事する者を除く)の平均値を分母として計算しています。
 営業収益価値とは、営業部門の獲得収益を表す当社独自の指標であり、経済環境の変動要因を除外した、事業費等コスト控除前の新契約価値に相当します。
 (3) 所定の成績水準を満たす、当社の中核たる営業職の占率を指します。



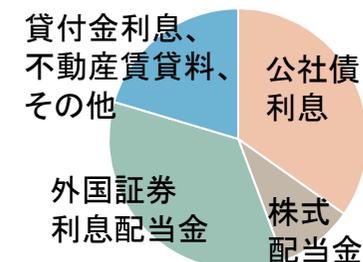
第一生命業績 - 順ざやと追加責任準備金

平均予定利率と基礎利回り



• 投信配当等、市場環境の変化の影響も受けつつ、オープン外債の積み増しや通貨分散等、機動的な運用により利回りを改善し、順ざやを維持

利息及び配当金等収入の内訳(18/3期)



• 追加責任準備金の新規繰入れにより、平均予定利率は下降トレンドを維持

追加責任準備金 新規繰入額 (1)

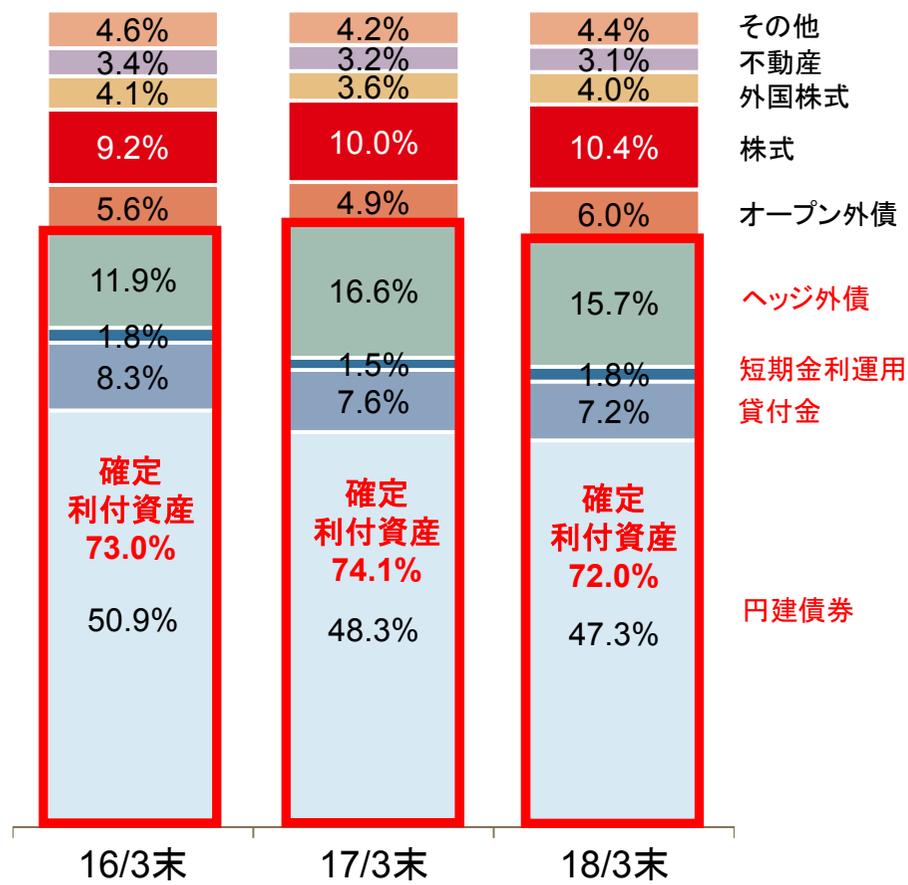


(1) 1996年3月以前加入の終身保険のうち、払込満了後契約を対象とした金額を記載しています。

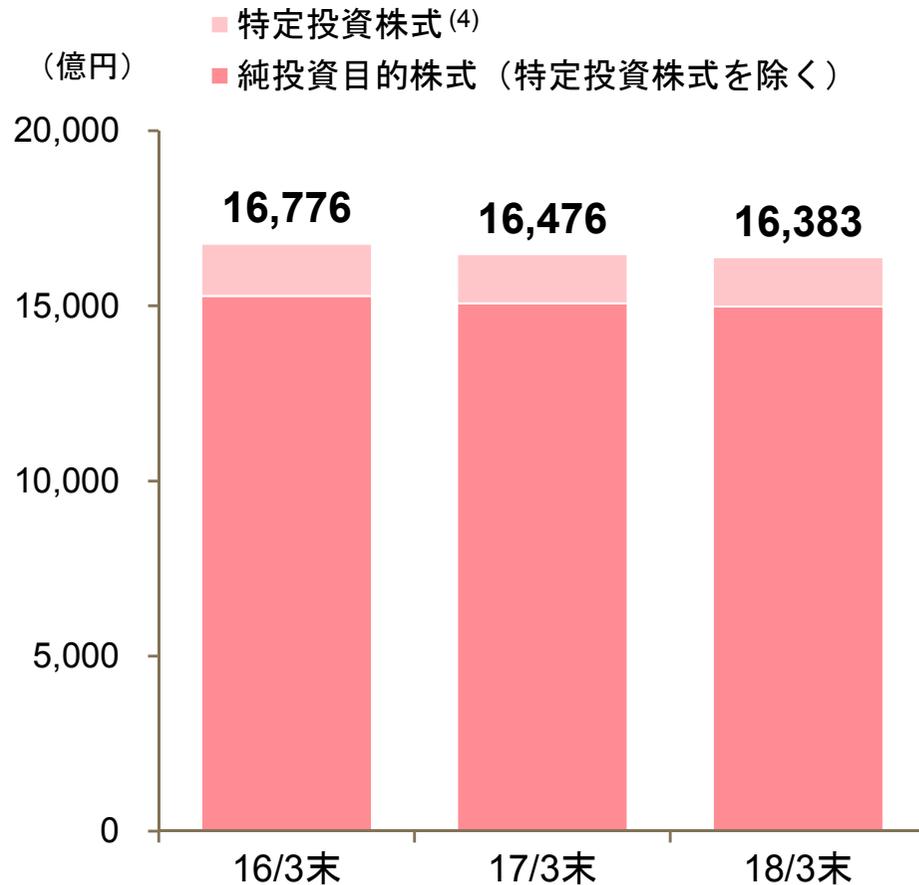


第一生命業績 - 一般勘定資産運用の状況 (1)

資産の構成 (一般勘定) (1)(2)



国内株式の簿価 (3)



(1) 2016年10月1日付の持株会社体制移行に伴い、【旧】第一生命の傘下にあった子会社・関連会社株式の一部は第一生命ホールディングスに残置しています。グラフは現第一生命の資産構成を示しています。なお、16/3末については株式及び外国株式において持株会社体制移行の影響を調整しています。

(2) 貸借対照表価額ベース

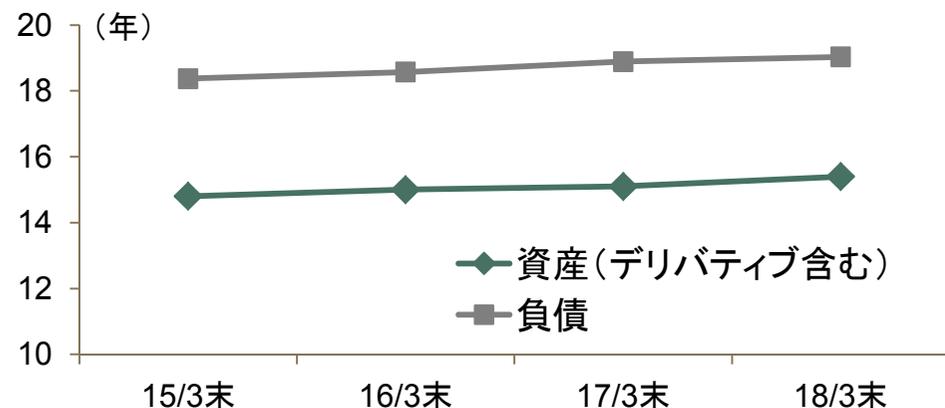
(3) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)

(4) 純投資目的以外の目的で保有する株式(非上場国内株式、みなし保有株式は除く)

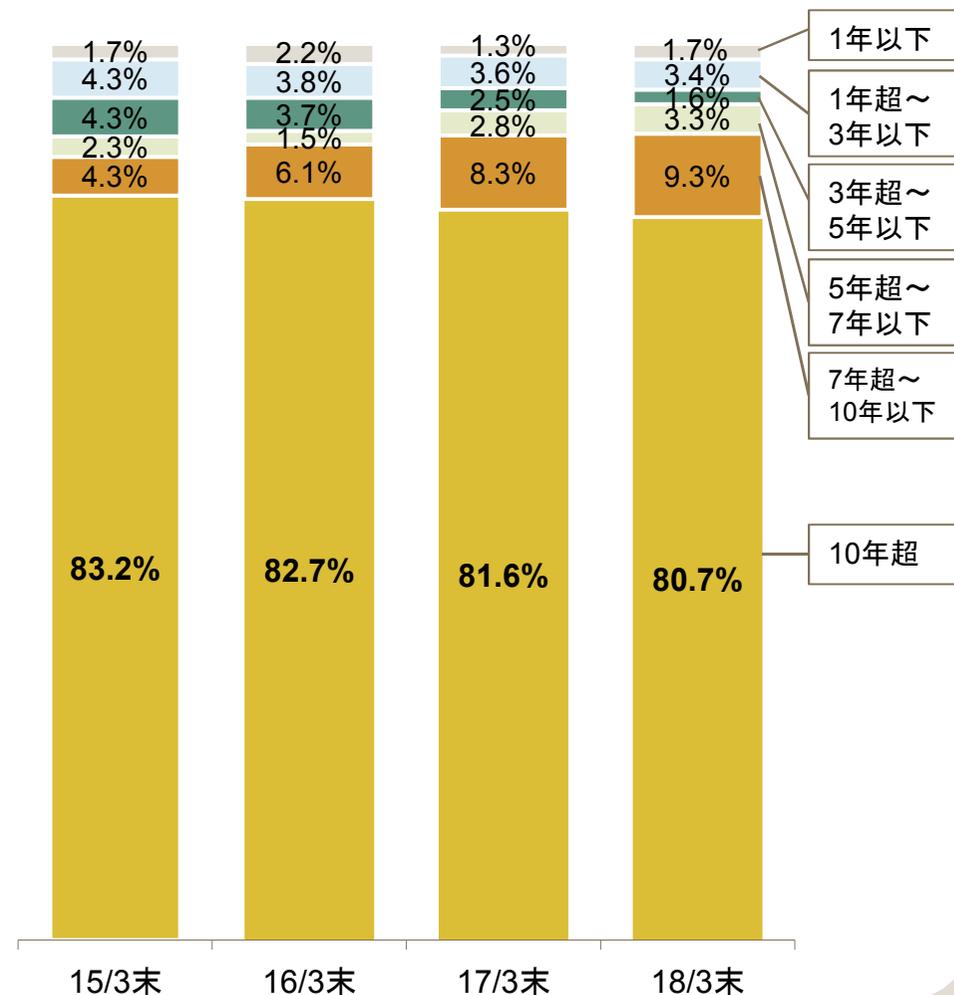


第一生命業績 - 一般勘定資産運用の状況 (2)

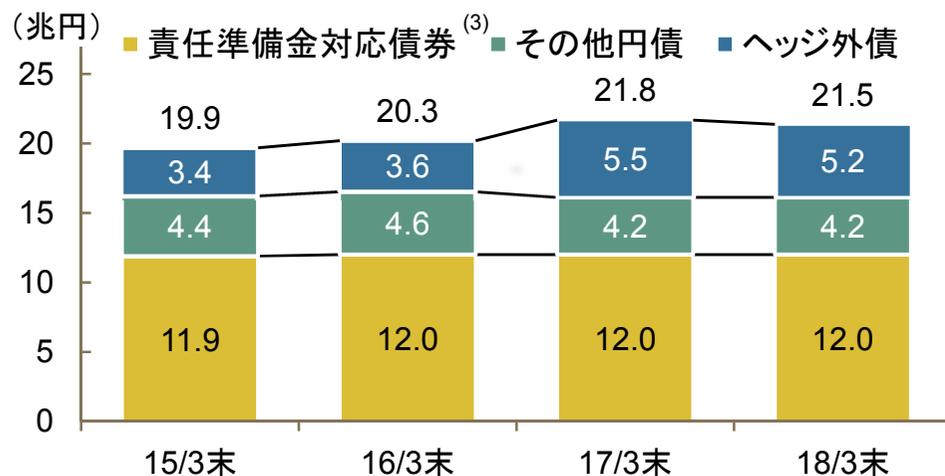
確定利付資産と負債のデュレーション (1)



国内債券の残存期間 (4)



債券の積み増し状況 (2)

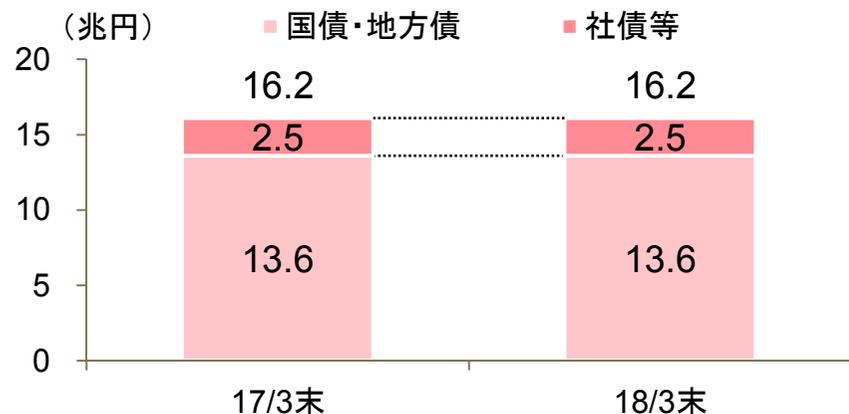


- (1) 一般勘定資産のうち主に個人保険・個人年金に関わる経理区分の保険負債と円建確定利付資産(デリバティブ含む)のデュレーション
- (2) 一般勘定資産のうち円建債券とヘッジ外債を対象としています。簿価ベース
- (3) 責任準備金対応債券とは、保険会社だけに認められた区分で、一定の要件を満たせば償却原価法による評価が認められているものを指します。
- (4) 一般勘定資産のうち国内債券を対象としています。貸借対照表価額ベース

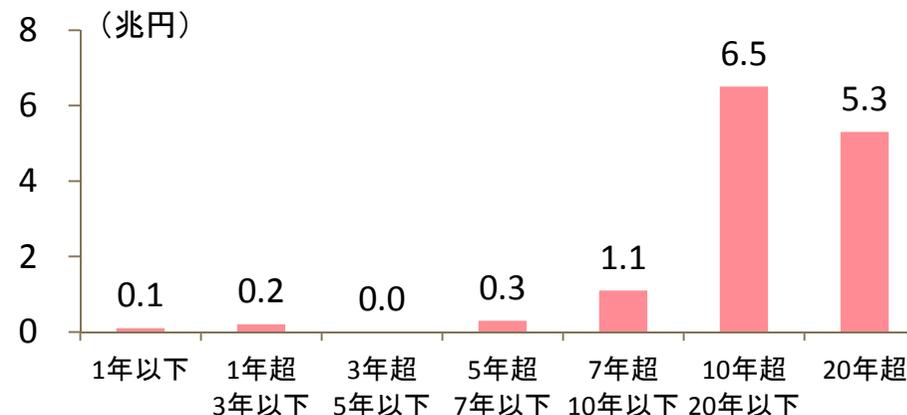


第一生命業績 - 一般勘定資産運用の状況 (2) 保有債券の状況

円建債券の内訳 (1)

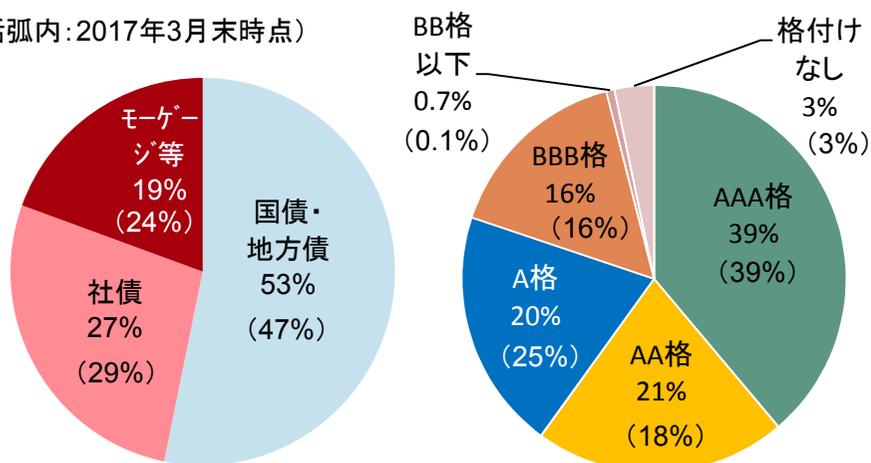


国債の残存期間別残高 (2) (2018年3月末)

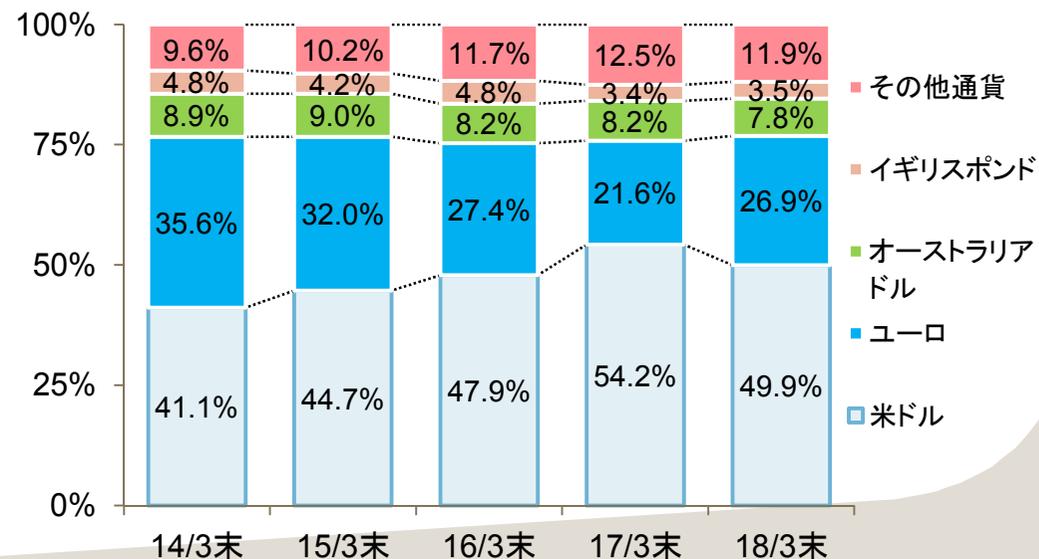


外貨建債券の内訳 (2)(3) (2018年3月末)

(括弧内: 2017年3月末時点)



外貨建債券の通貨別構成 (2)



(1) 簿価ベース
 (2) 貸借対照表価額ベース
 (3) 格付けはS&P・Moody'sの2社の格付け機関による格付けの中間の評価を採用、モーゲージ等を除く

第一生命業績 - 健全性指標



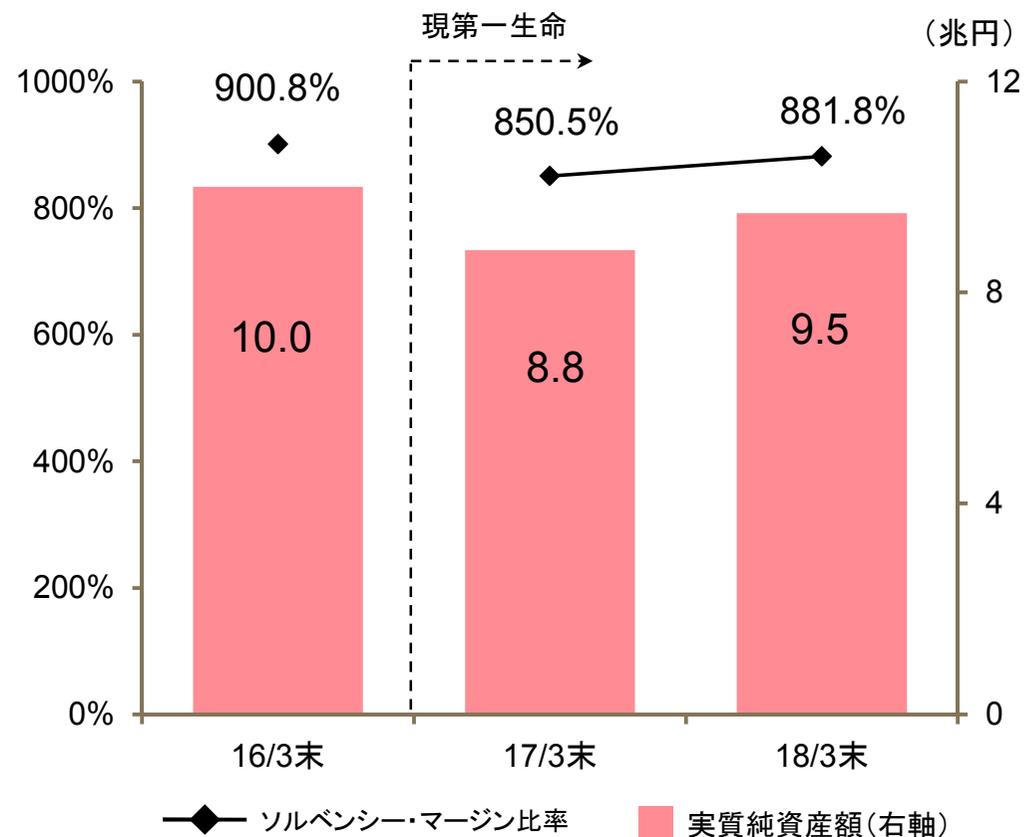
Dai-ichi Life Holdings

含み損益(一般勘定)

(億円)

	17/3末	18/3末	増減
有価証券	54,910	58,271	+3,361
国内債券	32,439	32,296	△143
国内株式	16,878	20,159	+3,280
外国債券	3,947	4,140	+192
外国株式	1,252	1,411	+158
不動産	1,667	2,182	+514
その他共計	56,370	60,491	+4,121

ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額



<参考> 第一生命ホールディングスの
連結ソルベンシー・マージン比率:
2018年3月末 838.3%

第一生命業績 - 金融市場への感応度(2018年3月末)



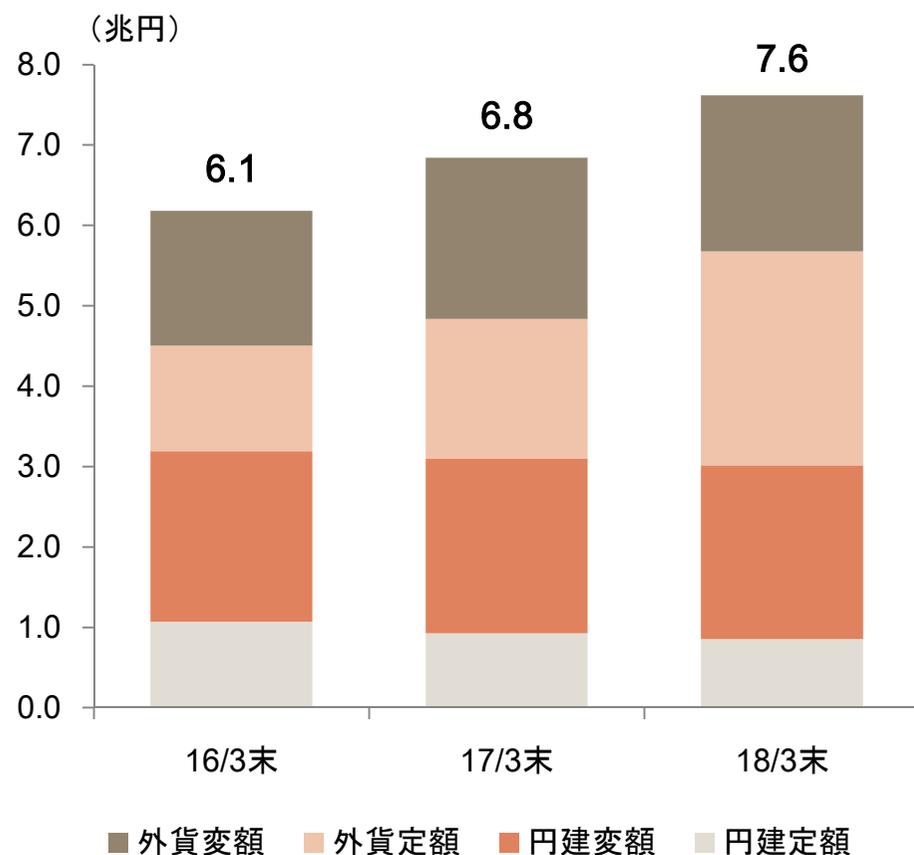
	感応度 (1)	含み損益ゼロ水準 (2)
国内株式	<p>日経平均株価 1,000円の変動で 1,700億円の増減 (2017年3月末:1,700億円)</p>	<p>日経平均株価 ¥9,500 (2017年3月末:¥9,400)</p>
国内債券	<p>10年国債利回り 10bpの変動で 2,600億円の増減※ (2017年3月末:2,600億円)</p> <p>※その他有価証券区分:300億円の増減 (2017年3月末:300億円)</p>	<p>10年国債利回り 1.2%※ (2017年3月末:1.3%)</p> <p>※その他有価証券区分:1.4% (2017年3月末:1.4%)</p>
外国証券	<p>ドル/円 1円の変動で 270億円の増減 (2017年3月末:210億円)</p>	<p>ドル/円 \$1 = ¥103 (2017年3月末:¥105)</p>

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度を記載しています。

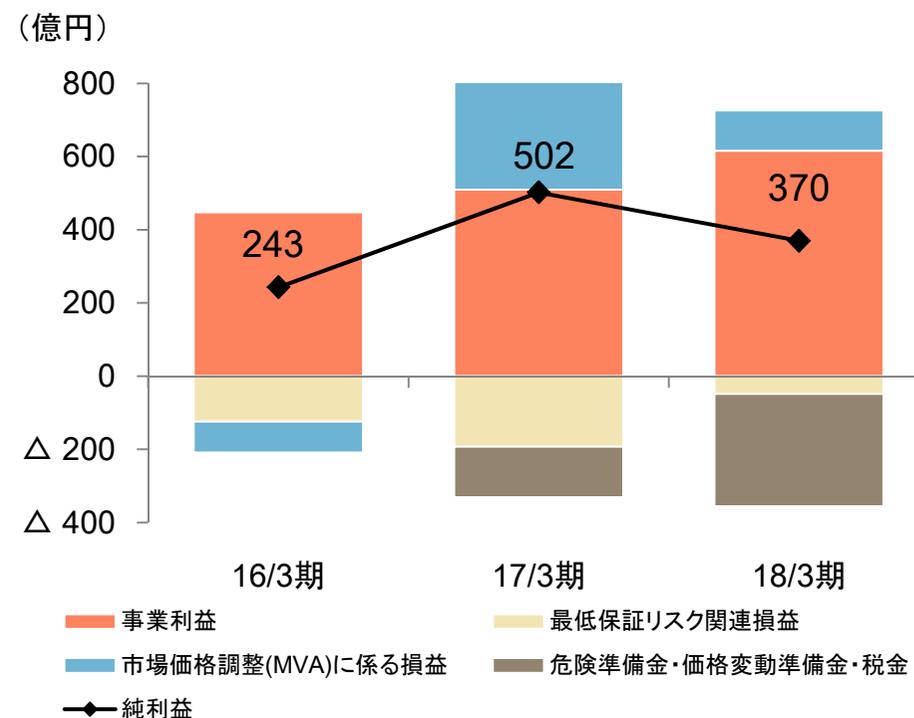
(2) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準を記載しています。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準を記載しています。

■ 事業利益は保有契約の拡大等により増加。純利益は危険準備金繰入や法人税支払の増加により減益

商品別保有契約高



事業利益・純利益



注： 事業利益は、当期純利益から最低保証リスク関連損益、市場価格調整(MVA)に係る損益、危険準備金の繰入等を除いた基礎的な収益力を表す内部管理指標です。



海外生命保険事業



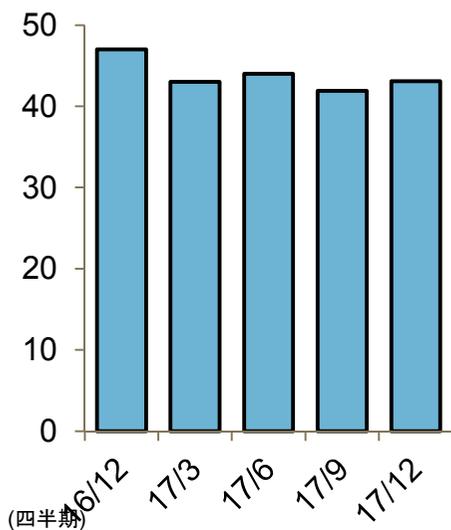
米プロテクティブ業績(1)

業績ハイライト

- 規制動向の影響を受けた変額年金を除き、販売は全体的に堅調に推移。
- 年金事業は減益も、ステーブル・バリュー事業において受託残高が高水準で推移したことや運用収益が改善したこと、将来利益推計の前提の変更に伴う繰延新契約費の償却負担減少により税引前営業利益は前年比で微増。
- 米国の税制改革に伴い繰延税金負債の取崩益797.6百万ドルを計上したことから、当期利益は大幅増。

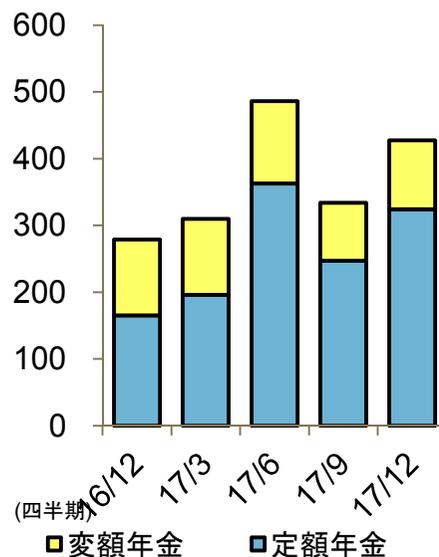
営業業績(百万米ドル)

生保事業



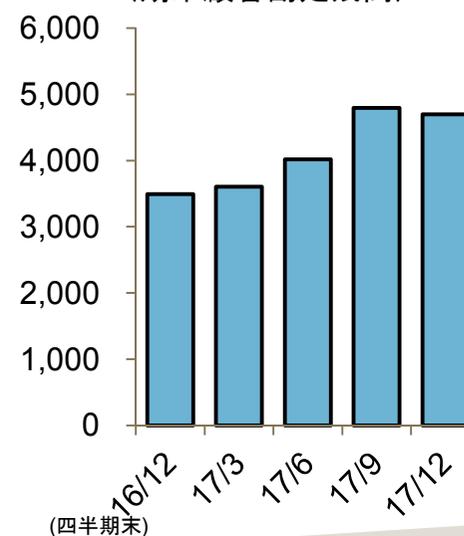
※ 年換算保険料等をベースに集計

年金事業

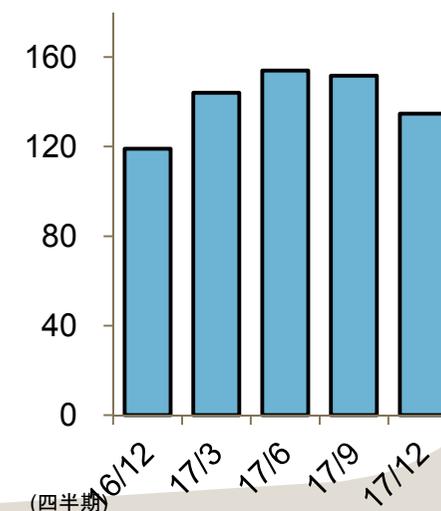


※ 掛金収入等をベースに集計

ステーブル・バリュー事業 (期末顧客勘定残高)



アセットプロテクション事業



※ 一時払保険料および手数料をベースに集計



米プロテクティブ業績(2)

主要業績(1)

(百万米ドル)

	17/3期	18/3期	前年同期比	
生保事業	39.7	50.7	+ 11.0	+27.8%
買収事業	260.5	249.7	△ 10.7	△4.1%
年金事業	213.2	213.0	△ 0.2	△0.1%
ステーブルバリュー事業	61.2	105.2	+ 43.9	+71.7%
アセットプロテクション事業	16.4	24.3	+ 7.8	+47.7%
コーポレート	△ 87.9	△ 136.3	△ 48.3	+55.0%
税引前営業利益 ⁽²⁾	503.3	506.8	+ 3.5	+0.7%
キャピタル損益(運用収支)	48.5	149.1	+ 100.6	+207.2%
キャピタル損益(金融派生商品損益)	42.0	△ 221.0	△ 263.0	--
法人税等	△ 200.9	671.4	+ 872.4	--
当期利益	393.0	1,106.5	+ 713.5	+181.5%

<参考>

	16/12末	17/12末
為替レート(米ドル)	116.49	113.00

セグメント別業績概況

【生保事業】

- 運用収益の改善の他、将来利益推計の前提の変更に伴い、前年比で繰延新契約費のアンロッキングの影響が改善したことにより増益

【買収事業】

- 保有契約の減少に伴い減益

【年金事業】

- 即時払年金において年金支払対象契約が増加したものの、スプレッドの改善や繰延新契約費のアンロッキングの影響により相殺

【ステーブルバリュー事業】

- 前年比で受託残高が高水準で推移したことやモーゲージ等で良好な利ざやを確保し大幅増益

【アセットプロテクション事業】

- 損害率が低かったことや、買収したUSワランティコーポレーションの貢献により増益

(1) 米プロテクティブの決算日は12月31日です。

(2) 税引前営業利益(Pre-tax Adjusted Operating Earnings)とは、当期利益から資産運用やデリバティブにおけるキャピタル損益を控除した利益指標です。

豪TAL業績 (1)



Dai-ichi Life Holdings

業績ハイライト

- 個人保険で価格競争強まるも、団体保険で第1四半期に獲得した複数の新契約の貢献等により、保有契約年換算保険料は増加。
- 個人保険における料率改定や事業費の改善等により基礎的収益力は、前年比2%増。
- 運用収支悪化等により当期純利益は前年比13%減。

新契約年換算保険料

(百万豪ドル)

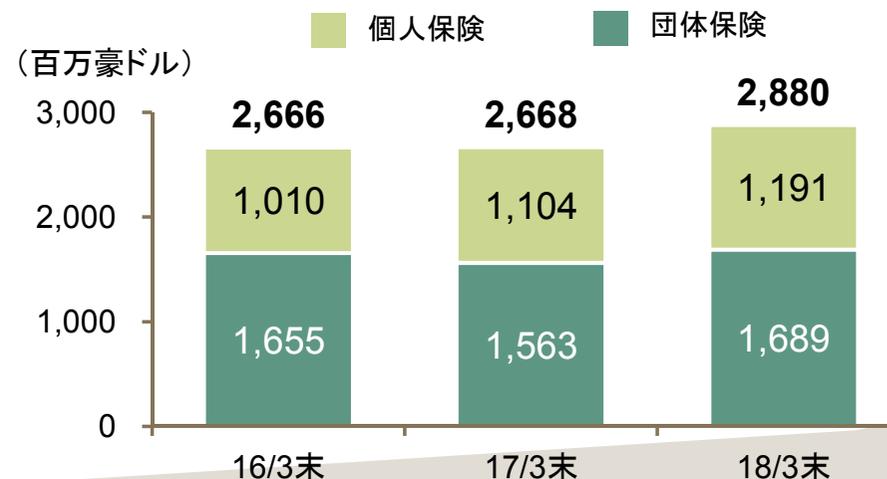
	16/3期	17/3期	18/3期	増減	
個人保険	新契約	144	148	139	△ 9
	既契約増減	87	100	119	+19
	小計	231	248	258	+9
団体保険	新契約	332	5	160	+154
	既契約増減	9	0	△ 23	△ 24
	小計	341	6	136	+130
合計	573	254	395	+140	

※既契約増減は契約更新や料率改訂等に伴う既契約の年換算保険料の増減を示す

(百万豪ドル)

	17/3期	18/3期	前年比
純利益(A) ⁽²⁾	148	128	△13%
修正額(B)	31	54	
うち負債割引率の変化	1	8	
うち償却負担	20	19	
うち優先株配当	19	9	
その他	△ 8	16	
基礎的収益力=(A)+(B) (Underlying profit)	180	183	+2%

保有契約年換算保険料



(1) 連結対象の豪持株会社 (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd) に係る数値

(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しています。



業績ガイダンス

第一生命グループ業績予想 - 2019年3月期業績予想

■ 一時的要因の剥落により減収・減益も、グループ修正利益は実質増益とし、増配を予想

(億円)

	18/3期	19/3期(予)	増減
連結経常収益	70,378	64,290	△ 6,088
第一生命	37,919	36,210	△ 1,709
第一フロンティア生命	18,094	14,290	△ 3,804
プロテクティブ (百万米ドル)	9,772	9,190	△ 582
TAL (百万豪ドル)	3,769	3,830	+ 60
連結経常利益	4,719	4,140	△ 579
第一生命	3,588	3,300	△ 288
第一フロンティア生命	608	250	△ 358
プロテクティブ (百万米ドル)	435	470	+ 34
TAL (百万豪ドル)	199	200	+ 0
連結純利益⁽¹⁾	3,639	2,200	△ 1,439
第一生命	1,699	1,650	△ 49
第一フロンティア生命	370	140	△ 230
プロテクティブ (百万米ドル)	1,106	370	△ 736
TAL (百万豪ドル)	128	140	+ 11
1株当たり配当金	50円	53円	+3円
グループ修正利益	2,432	2,300程度	△ 132

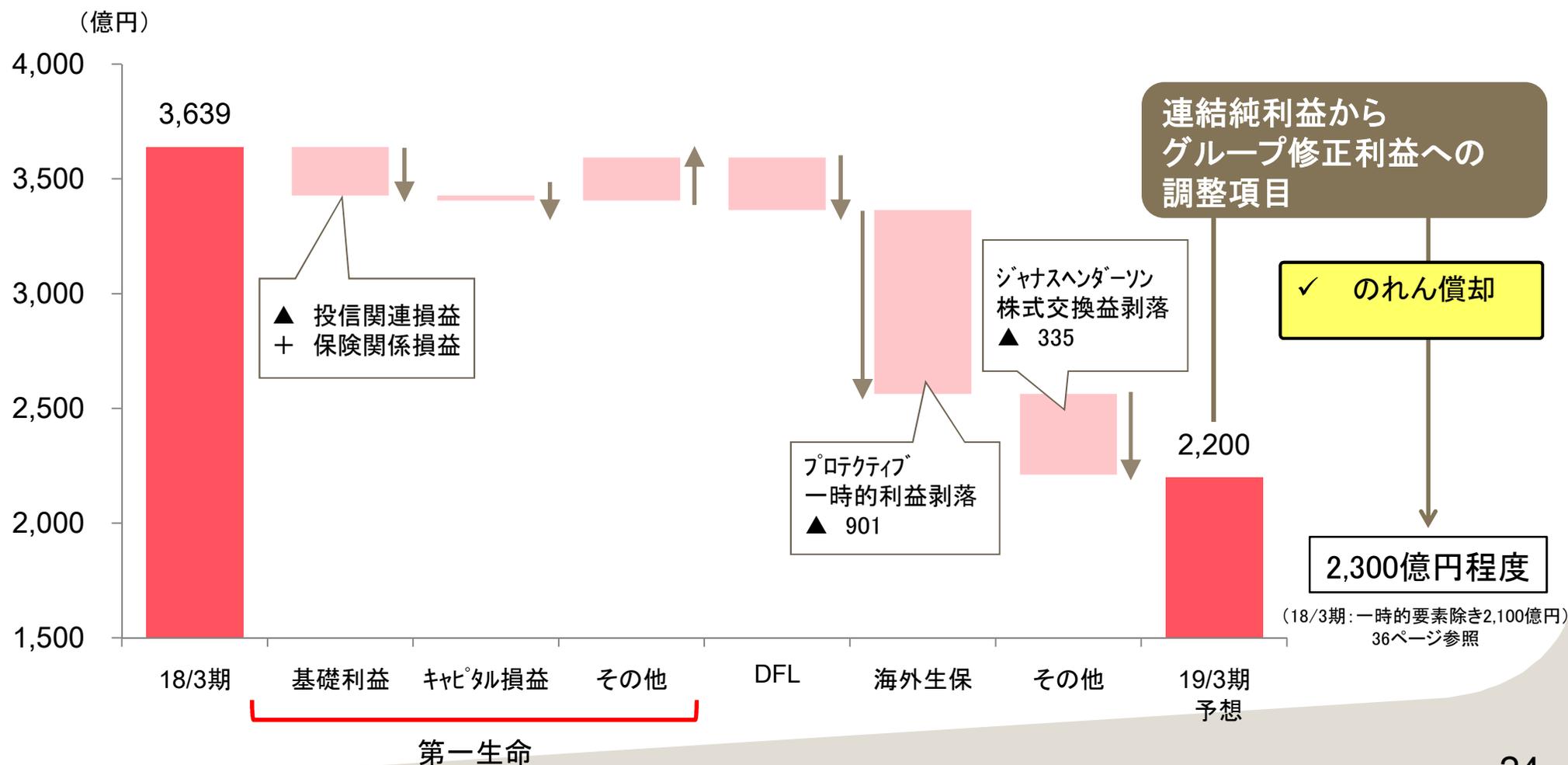
(参考: 基礎利益)

第一生命グループ	5,738	5,400程度	△ 338
第一生命	4,290	3,900程度	△ 390

(1) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

第一生命グループ業績予想 - 2019年3月期業績予想

- 第一生命の順ぎやに含まれる投信配当等や米国法人税減税に係る一時的利益、ジャナス・ヘンダーソン株式交換益といった一時的利益の剥落により減益
- グループ修正利益は実質増益





グループEEV

EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (1)



Dai-ichi Life
Holdings

【第一生命グループ】

(億円)

	17/3末	18/3末	増減
グループEEV	54,954	60,941	+5,987
対象事業 (covered business) のEEV ⁽¹⁾	56,901	63,208	+6,307
修正純資産	60,735	67,239	+6,503
保有契約価値	△ 3,834	△ 4,030	△ 196
対象事業以外の純資産等に係る調整 ⁽²⁾	△ 1,946	△ 2,266	△ 320

	17/3期	18/3期	増減
新契約価値	1,455	1,902	+ 447

- (1) 対象事業 (covered business) とは、EEV原則で定められているEV手法を適用した範囲のことで、EEV原則では、対象事業のEEVを開示することを求めています。第一生命グループでは、従前は、第一生命グループが行うすべての事業を対象事業としていましたが、2016年10月1日付の持株会社体制移行後は、生命保険事業を行う子会社 (第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命、プロテクティブ、TAL、第一生命ベトナムおよびこれらの子会社) を対象事業としました。
- (2) 「対象事業以外の純資産等に係る調整」には、2018年3月末における第一生命ホールディングスの単体貸借対照表の純資産の部 (12,093億円)、第一生命ホールディングスの生命保険事業子会社6社に対する出資に係る調整 (△ 14,710億円)、第一生命ホールディングスが保有する資産・負債を時価評価する調整が含まれます。

EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (2)



【グループ各社のEEV】

(億円)

第一生命	17/3末	18/3末	増減
EEV	44,276	48,870	+4,594
修正純資産	53,519	58,781	+5,262
保有契約価値	△ 9,242	△ 9,910	△ 668

	17/3期	18/3期	増減
新契約価値	1,110	1,490	+ 380

第一フロンティア生命	17/3末	18/3末	増減
EEV	3,537	4,019	+481
修正純資産	1,566	2,439	+873
保有契約価値	1,971	1,579	△391

	17/3期	18/3期	増減
新契約価値	175	131	△44

ネオファースト生命	17/3末	18/3末	増減
EEV	380	507	+127
修正純資産	219	187	△31
保有契約価値	161	319	+158

	17/3期	18/3期	増減
新契約価値	△39	30	+ 69
新契約価値(均衡事業費ベース)	24	86	+ 62

(注) プロテクトティブ、第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。

プロテクトティブ 使用為替レート

16/12末EEV: 16/12末の為替レート(1米ドル=116.49円)

17/12末EEV: 17/12末の為替レート(1米ドル=113.00円)

TAL 使用為替レート

17/3末EEV: 17/3末の為替レート(1豪ドル=85.84円)

18/3末EEV: 18/3末の為替レート(1豪ドル=81.66円)

第一生命ベトナム 使用為替レート

16/12末EEV: 16/12末の為替レート(ドン=0.0051円)

17/12末EEV: 17/12末の為替レート(ドン=0.0050円)

(億円)

プロテクトティブ	16/12末	17/12末	増減
EEV	5,898	6,586	+688
修正純資産	4,214	4,421	+206
保有契約価値	1,683	2,165	+482

	16/12期	17/12期	増減
新契約価値	38	12	△26

TAL	17/3末	18/3末	増減
EEV	2,689	2,820	+131
修正純資産	1,284	1,329	+44
保有契約価値	1,404	1,491	+86

	17/3期	18/3期	増減
新契約価値	169	186	+ 16

第一生命ベトナム	16/12末	17/12末	増減
EEV	334	613	+278
修正純資産	147	289	+142
保有契約価値	187	323	+136

	16/12期	17/12期	増減
新契約価値		51	

※ 第一生命ベトナムは伝統手法による評価



EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (3)

資産・負債の対応を考慮したEEVの再分類

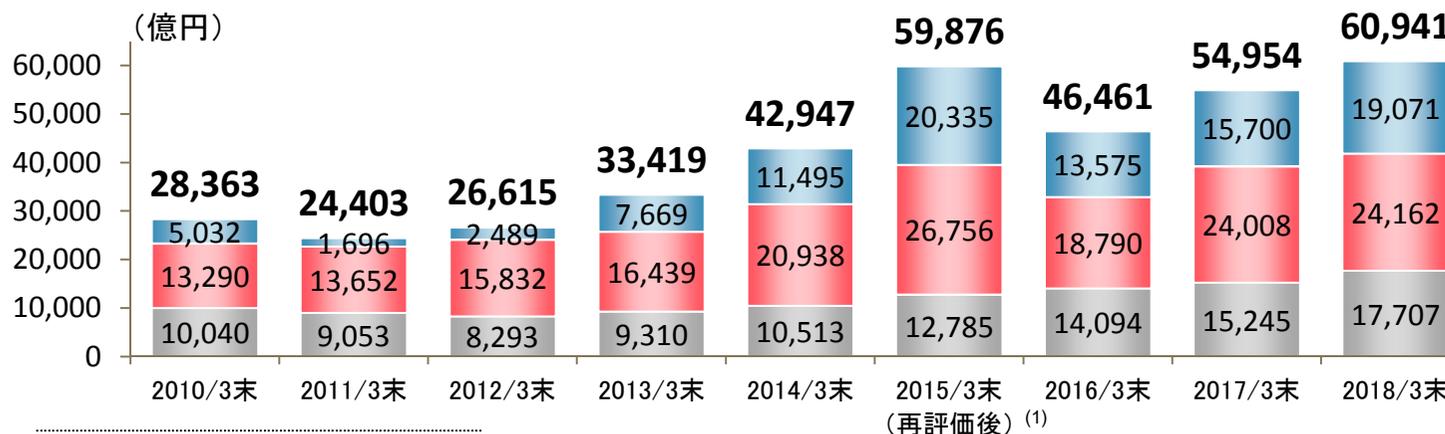
資産・負債の対応を考慮した再分類

第一生命グループのEEV(億円)

	17/3末	18/3末	増減
グループEEV	54,954	60,941	+5,987
対象事業 (covered business) のEEV	56,901	63,208	+6,307
修正純資産	60,735	67,239	+6,503
保有契約価値	△ 3,834	△ 4,030	△ 196
対象事業以外の純資産等に係る調整	△ 1,946	△ 2,266	△ 320

	17/3末	18/3末
グループEEV	54,954	60,941
確定利付資産以外の含み損益等 ⁽²⁾	15,700	19,071
保有契約価値+確定利付資産の含み損益等 ⁽³⁾	24,008	24,162
純資産等+負債中の内部留保 ⁽⁴⁾	15,245	17,707

第一生命グループのEEV推移 【資産・負債の対応を考慮した再分類】



保有契約価値+含み損益等
: 保険契約の保有により生じる将来利益

確定利付資産以外の含み損益等⁽²⁾

保有契約価値+確定利付資産の含み損益等⁽³⁾

純資産等
+ 負債中の内部留保⁽⁴⁾
: 実現利益の累積額に相当

- (1) 2015/3末のEVは、終局金利を用いた方法による再評価後の数値を記載しております。
- (2) 第一生命が保有する確定利付資産以外の資産(株式、外貨建債券(ヘッジ外債を除く)、不動産等)の含み損益等の額を計上しています。
- (3) 保有契約価値に、第一生命の確定利付資産ならびに第一フロンティア生命およびネオファースト生命の資産の含み損益等を加算・調整した額を計上しています。本項目は、未実現利益のうち、主に金利の影響を受ける部分であり、金利水準等の変化に応じた、保有契約価値および確定利付資産の含み損益等の変動額は、お互いに相殺関係にあります。
- (4) 対象事業のEEVの修正純資産に対象事業以外の純資産等に係る調整を反映し、含み損益等を除いた額を計上しています。



参考データ

第一生命グループ業績 - 連結主要業績(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

連結損益計算書

(億円)

	17/3期	18/3期	増減
経常収益	64,567	70,378	+5,810
保険料等収入	44,687	48,845	+4,158
資産運用収益	16,261	18,026	+1,764
うち利息・配当金等収入	11,077	11,973	+895
うち有価証券売却益	2,237	2,367	+129
うち特別勘定資産運用益	1,157	1,274	+117
その他経常収益	3,618	3,506	△112
経常費用	60,314	65,658	+5,343
うち保険金等支払金	36,183	37,899	+1,715
うち責任準備金等繰入額	10,167	12,238	+2,071
うち資産運用費用	3,421	5,489	+2,068
うち有価証券売却損	942	1,159	+216
うち有価証券評価損	271	47	△224
うち金融派生商品費用	294	789	+494
うち為替差損	737	2,452	+1,715
うち事業費	6,509	6,611	+101
経常利益	4,253	4,719	+466
特別利益	174	341	+166
特別損失	474	344	△130
契約者配当準備金繰入額	850	950	+100
税金等調整前当期純利益	3,103	3,767	+663
法人税等合計	790	128	△662
非支配株主に帰属する当期純利益	0	-	△0
親会社株主に帰属する当期純利益	2,312	3,639	+1,326

連結貸借対照表

(億円)

	17/3末	18/3末	増減
資産の部合計	519,858	536,030	+16,171
うち現預金・コール	9,804	10,558	+754
うち買入金銭債権	1,982	1,951	△31
うち有価証券	436,509	449,169	+12,659
うち貸付金	35,666	34,876	△789
うち有形固定資産	11,384	11,305	△78
うち繰延税金資産	1	12	+10
負債の部合計	488,485	498,537	+10,051
うち保険契約準備金	446,941	455,137	+8,196
うち責任準備金	437,402	445,977	+8,574
うち社債	9,897	9,689	△208
うちその他負債	18,520	19,981	+1,461
うち退職給付に係る負債	4,215	4,131	△83
うち価格変動準備金	1,746	1,957	+211
うち繰延税金負債	3,244	3,578	+333
純資産の部合計	31,372	37,492	+6,120
うち株主資本合計	13,007	15,896	+2,888
うちその他の包括利益累計額合計	18,352	21,583	+3,230
うちその他有価証券評価差額金	19,060	22,381	+3,320
うち土地再評価差額金	△175	△124	+51

以下の項目については、責任準備金の戻入/繰入や関連する資産の含み益/損等と相殺されるものを含みます。これらについては益又は損が発生するものの、業績に大きな影響を与えるものではありません。

(特別勘定資産運用益/損 為替差益/損 金融派生商品収益/費用)

第一生命 財務諸表(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

損益計算書 (1)

(億円)

	17/3期	18/3期	増減
経常収益	39,467	37,919	△1,548
保険料等収入	25,475	23,219	△2,255
資産運用収益	10,720	11,512	+792
うち利息・配当金等収入	7,735	8,360	+624
うち有価証券売却益	2,000	2,296	+295
うち特別勘定資産運用益	547	531	△16
その他経常収益	3,271	3,186	△84
経常費用	36,649	34,330	△2,318
うち保険金等支払金	23,275	22,652	△622
うち責任準備金等繰入額	2,733	1,663	△1,069
うち資産運用費用	2,863	2,903	+40
うち有価証券売却損	911	1,112	+201
うち有価証券評価損	248	8	△239
うち金融派生商品費用	147	327	+180
うち為替差損	810	750	△60
うち事業費	4,220	4,086	△134
経常利益	2,818	3,588	+770
特別利益	49	5	△44
特別損失	439	301	△138
契約者配当準備金繰入額	850	950	+100
税引前純利益	1,578	2,342	+764
法人税等合計	406	643	+237
純利益	1,171	1,699	+527

貸借対照表

(億円)

	17/3末	18/3末	増減
資産の部合計	356,866	363,391	+6,525
うち現預金・コール	5,369	6,386	+1,016
うち買入金銭債権	1,922	1,911	△11
うち有価証券	304,981	309,611	+4,630
うち貸付金	26,578	25,623	△955
うち有形固定資産	11,244	11,161	△82
負債の部合計	332,050	334,509	+2,459
うち保険契約準備金	308,647	309,538	+891
うち責任準備金	302,491	304,072	+1,580
うち危険準備金	5,940	5,984	+44
うち社債	4,762	4,762	-
うちその他負債	10,047	10,547	+499
うち退職給付引当金	3,808	3,929	+120
うち価格変動準備金	1,644	1,814	+170
うち繰延税金負債	1,298	2,037	+739
純資産の部合計	24,816	28,882	+4,066
うち株主資本合計	5,612	6,960	+1,348
うち評価・換算差額等合計	19,203	21,922	+2,718
うちその他有価証券評価差額金	19,632	22,138	+2,506
うち土地再評価差額金	△175	△124	+51

(1) 2016年10月1日の持株会社体制への移行に伴い、損益計算書の2017年3月期累計については、2016年4月～9月の【旧】第一生命と分割準備会社の数値、2016年10月～2017年3月の【現】第一生命の数値を合算して記載しています。

第一フロンティア生命財務諸表(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

損益計算書

(億円)

	17/3期	18/3期	増減
経常収益	11,832	18,094	+ 6,261
うち保険料等収入	9,888	16,079	+ 6,190
うち資産運用収益	1,941	2,014	+ 73
うち為替差益	70	-	△ 70
経常費用	11,195	17,486	+ 6,290
うち保険金等支払金	5,555	7,848	+ 2,292
うち責任準備金等繰入額(△は戻入)	4,709	6,913	+ 2,203
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額	29	△ 46	△ 75
うち危険準備金繰入額	3	70	+ 66
うち資産運用費用	360	2,023	+ 1,663
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失	307	235	△ 72
うち為替差損	-	1,700	+ 1,700
うち事業費	512	614	+ 102
経常利益	637	608	△ 28
法人税等合計	100	196	+ 95
純利益	502	370	△ 131
修正利益	232	291	+ 59

【参考】

	17/3期	18/3期	増減
純利益	502	370	△ 131
最低保証リスク関連損益 ⁽¹⁾	△ 193	△ 48	+ 144
市場価格調整(MVA)に係る損益 ⁽²⁾	323	110	△ 212
事業利益	510	616	+ 106
危険準備金繰入・価格変動準備金繰入・税金	△ 138	△ 307	△ 169

貸借対照表

(億円)

	17/3末	18/3末	増減
資産の部合計	67,424	75,346	+ 7,922
うち現預金	1,098	1,719	+ 621
うち有価証券	62,149	67,652	+ 5,502
負債の部合計	66,321	73,826	+ 7,504
うち保険契約準備金	64,190	71,103	+ 6,913
うち責任準備金	64,098	70,978	+ 6,879
うち危険準備金	1,149	1,219	+ 70
純資産の部合計	1,103	1,520	+ 417
うち株主資本合計	930	1,300	+ 370
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△ 919	△ 549	+ 370

- (1) 最低保証リスク関連損益には、最低保証リスクに係る責任準備金繰入額及び同ヘッジ損益に加え、変額商品の危険保険料や最低保証に係る支払、再保険収支等が含まれます(17/3期:143億円、18/3期:139億円)。
- (2) 市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入/戻入のうち、資産運用損益勘定で相殺されて、経常利益に影響を及ぼさない部分は除いています。

以下の項目については、責任準備金の戻入/繰入や関連する資産の含み益/損等と相殺されるものを含みます。これらについては益又は損が発生するものの、業績に大きな影響を与えるものではありません。

(特別勘定資産運用益/損 為替差益/損 金融派生商品収益/費用)

米プロテクトティブ財務諸表(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

損益計算書⁽¹⁾⁽²⁾

(百万米ドル)

	17/3期 (1-12月)	18/3期 (1-12月)	増減
経常収益	8,873	9,772	+899
保険料等収入	5,353	5,358	+4
資産運用収益	3,099	3,965	+865
その他経常収益	420	449	+28
経常費用	8,279	9,337	+1,058
保険金等支払金	4,659	4,705	+46
責任準備金等繰入額	2,274	3,002	+727
資産運用費用	305	569	+264
事業費	796	887	+91
その他経常費用	244	172	△72
経常利益	594	435	△159
法人税等合計	200	△671	△872
純利益	393	1,106	+713

貸借対照表⁽¹⁾⁽²⁾

(百万米ドル)

	16/12末	17/12末	増減
資産の部合計	75,005	79,635	+4,630
うち現預金	350	395	+45
うち有価証券	56,237	60,193	+3,955
うち貸付金	7,784	8,435	+650
うち有形固定資産	114	119	+5
うち無形固定資産	2,937	2,819	△117
うちのれん	793	793	-
うちその他の無形固定資産	2,122	1,990	△131
うち再保険貸	161	182	+21
負債の部合計	69,533	72,508	+2,974
うち保険契約準備金	60,702	63,599	+2,897
うち再保険借	247	272	+25
うち社債	4,230	4,186	△44
うちその他負債	2,641	3,124	+482
純資産の部合計	5,471	7,127	+1,655
株主資本合計	6,126	7,114	+988
その他の包括利益累計額合計	△654	12	+667

(1) 米国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております。

(2) 米プロテクトティブの決算日は12月31日です。

豪TAL財務諸表(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

損益計算書 (1)(2)

(百万豪ドル)

	17/3期	18/3期	増減
経常収益	3,574	3,769	+195
保険料等収入	3,251	3,482	+230
資産運用収益	243	152	△91
その他経常収益	78	135	+56
経常費用	3,363	3,570	+207
保険金等支払金	2,218	2,476	+257
責任準備金等繰入額	292	262	△29
資産運用費用	49	40	△8
事業費	689	663	△25
その他経常費用	113	127	+13
経常利益	211	199	△11
法人税等合計	62	70	+7
純利益	148	128	△19
基礎的収益力 (Underlying profit)	180	183	+3

貸借対照表 (1)(2)

(百万豪ドル)

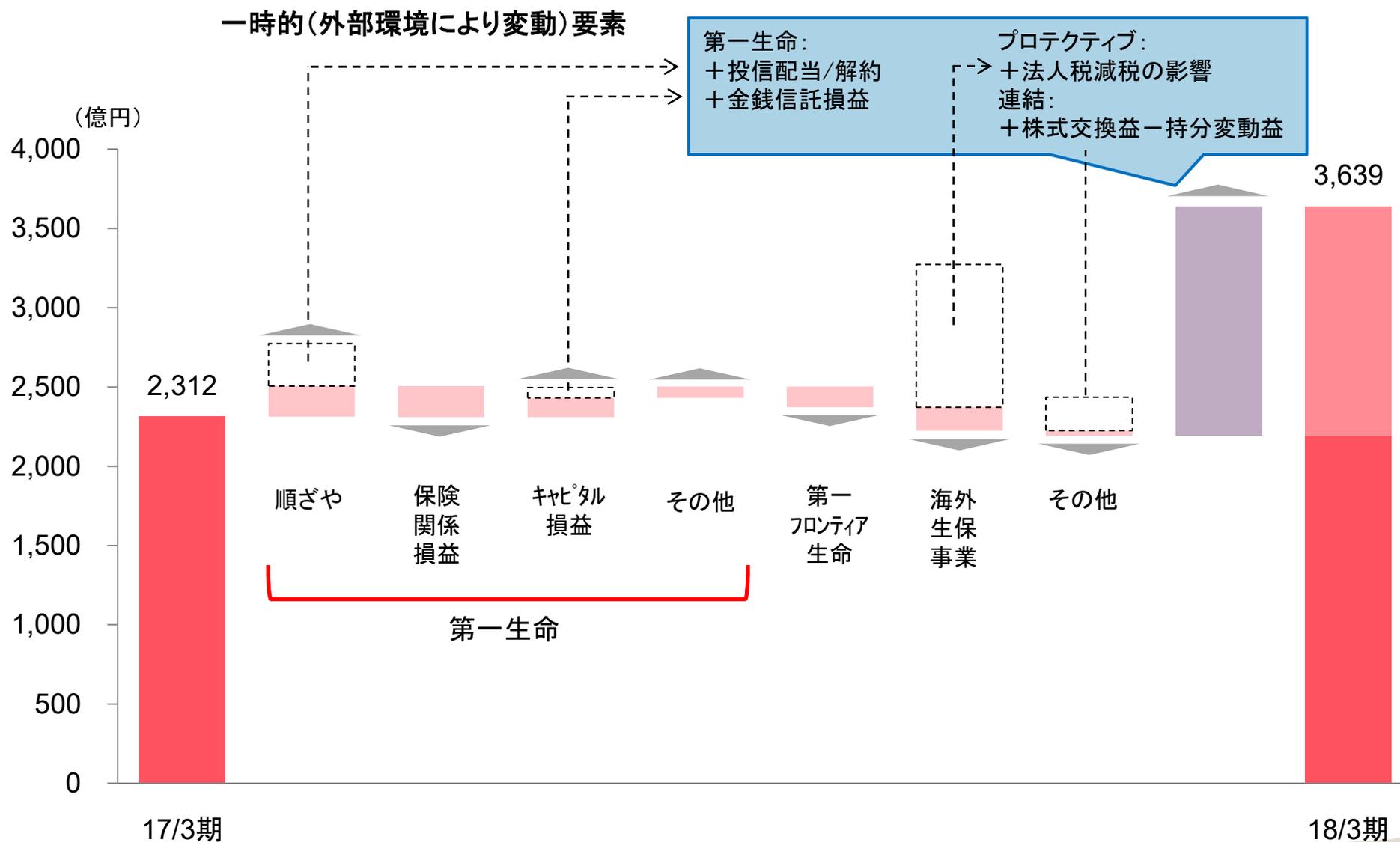
	17/3末	18/3末	増減
資産の部合計	7,178	6,099	△1,078
現預金	1,559	1,235	△323
有価証券	2,830	2,041	△789
有形固定資産	0	0	+0
無形固定資産	1,178	1,150	△28
のれん	786	786	-
その他無形固定資産	392	363	△28
再保険貸	131	129	△1
その他資産	1,478	1,542	+63
負債の部合計	4,887	3,699	△1,187
保険契約準備金	3,525	2,396	△1,129
再保険借	290	277	△13
社債	240	240	+0
その他負債	734	688	△46
繰延税金負債	95	96	+0
純資産の部合計	2,291	2,400	+108
株主資本合計	2,291	2,400	+108
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	660	769	+108

(1) 連結対象の豪持株会社 (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd) に係る数値

(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております (基礎的収益力を除く)



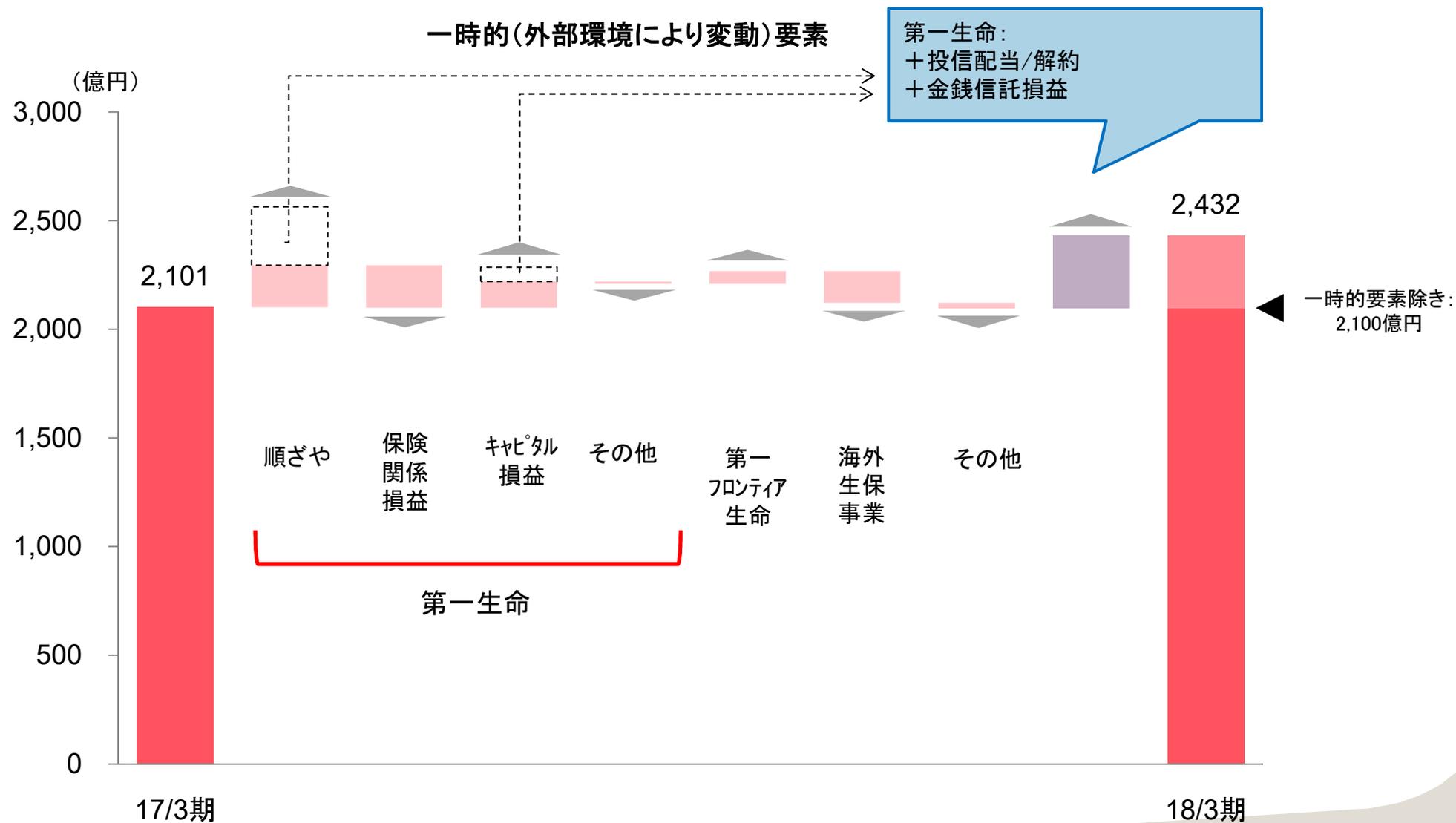
連結純利益の増減要因分析



(1) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。



グループ修正利益の増減要因分析





第一生命グループ業績 - 基礎利益の状況

	(億円)		
	17年3月期	18年3月期	増減
第一生命グループ	5,286	5,738	+451
国内保険会社	4,430	4,894	+463
うち第一生命	3,916	4,290	+374
うち第一フロンティア生命	572	684	+112
海外保険会社	841	797	△43
うちプロテクトイブ	586	572	△13
うちTAL	221	213	△7
アセットマネジメント事業	88	75	△13
持株会社・その他調整	△73	△28	+44

経常利益等の明細(基礎利益)の開示において、以下の2項目についてはこれまで基礎利益中に含まれていましたが、キャピタル損益に含める形で19年3月期より開示様式が統一される予定です。

- ・外貨建て商品に係る為替関係損益・・・調整①
- ・一時払い年金商品等に係る市場価格調整(MVA)調整額・・・調整②

開示様式の変更に伴う影響は第一生命グループ、第一生命、第一フロンティア生命それぞれ以下の通りです。

(億円)	
〈第一生命グループ〉	
	17年3月期
旧基準基礎利益	5,584
調整①	△1
調整②	△296
新基準基礎利益	5,286

(億円)	
〈第一生命〉	
	17年3月期
旧基準基礎利益	3,921
調整①	△1
調整②	△3
新基準基礎利益	3,916

(億円)	
〈第一フロンティア生命〉	
	17年3月期
旧基準基礎利益	865
調整①	—
調整②	△292
新基準基礎利益	572

第一生命グループ業績－第一生命HDの連結ソルベンシー・マージン比率

(億円)

	17/3末	18/3末	増減
ソルベンシー・マージン総額(A)	63,740	72,918	+9,177
資本金等 ⁽¹⁾	9,096	12,239	+3,142
価格変動準備金	1,746	1,957	+211
危険準備金	7,095	7,211	+115
一般貸倒引当金	7	4	△ 2
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	23,625	27,995	+4,370
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	1,138	1,555	+416
未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の合計額	△ 273	△ 115	+157
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	22,269	23,200	+931
負債性資本調達手段等	7,592	7,592	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	△ 7,084	△ 7,496	△ 411
控除項目	△ 1,718	△ 1,650	+67
その他	244	423	+178
リスクの合計額(B) $\sqrt{(\sqrt{R_1^2+R_5^2+R_8+R_9})^2+(R_2+R_3+R_7)^2}+R_4+R_6$	17,014	17,395	+380
保険リスク相当額 R ₁	1,220	1,202	△ 17
一般保険リスク相当額 R ₅	49	52	+3
巨大災害リスク相当額 R ₆	20	20	+0
第三分野保険の保険リスク相当額 R ₈	1,920	2,013	+93
少額短期保険業者の保険リスク相当額 R ₉	—	—	—
予定利率リスク相当額 R ₂	2,550	2,532	△ 18
最低保証リスク相当額 R ₇ ⁽²⁾	844	810	△ 34
資産運用リスク相当額 R ₃	12,909	13,325	+415
経営管理リスク相当額 R ₄	390	399	+8
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	749.2%	838.3%	+89.1%

(1) 社外流出予定額及びその他の包括利益累計額等を除いています。

(2) 標準的方法を用いて算出しています。

上場会社単体としての2019年3月期業績予想



Dai-ichi Life
Holdings

- 第一生命ホールディングスの収支は、営業収益については関係会社からの受取配当金や経営管理料が主要項目となり、営業費用については持株会社に係る運営費用(販管費)が主要項目となります。第一生命ホールディングスの2019年3月期の業績予想は以下の通りです。

第一生命ホールディングス(持株会社)

(億円)

	18/3期	19/3期(予)
営業収益	581	1,740
経常利益	488	1,610
当期純利益	575	1,600



本資料の問い合わせ先

第一生命ホールディングス株式会社

経営企画ユニット IRグループ

電話:050-3780-6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命ホールディングス株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

2018年3月期決算報告 財務・業績の概況

①契約の状況等

		2017年3月末	2017年9月末	2018年3月末
新契約年換算保険料(グループ)	(百万円)	440,748 (+13.8)	196,041 (+ 0.3)	406,495 (△ 7.8)
うち第一生命分	(百万円)	196,162 (+39.5)	54,511 (△29.9)	111,229 (△43.3)
うち第三分野	(百万円)	60,292 (+17.6)	36,371 (+55.3)	73,264 (+21.5)
うち第一フロンティア生命	(百万円)	174,167 (+13.2)	90,135 (+ 1.1)	193,462 (+11.1)
うちプロテクティブ	(百万円)	35,310 (△ 1.0)	18,588 (+18.1)	36,622 (+ 3.7)
うちTAL	(百万円)	21,878 (△55.8)	24,532 (+199.8)	32,261 (+47.5)
保有契約年換算保険料(グループ)	(百万円)	3,633,488 (+ 7.0)	3,665,163 (+ 8.7)	3,671,198 (+ 1.0)
うち第一生命分	(百万円)	2,147,245 (+ 4.0)	2,145,991 (+ 2.9)	2,145,850 (△ 0.1)
うち第三分野	(百万円)	606,332 (+ 5.2)	627,318 (+ 7.2)	647,993 (+ 6.9)
うち第一フロンティア生命	(百万円)	712,750 (+26.0)	734,902 (+19.4)	730,008 (+ 2.4)
うちプロテクティブ	(百万円)	510,764 (△ 0.1)	492,370 (+10.3)	498,122 (△ 2.5)
うちTAL	(百万円)	229,028 (△ 0.4)	252,709 (+26.3)	235,256 (+ 2.7)
連結保険料等収入	(百万円)	4,468,736 (△20.0)	2,222,380 (△ 2.1)	4,884,579 (+ 9.3)
うち 第一生命	(百万円)	2,547,581 (△11.1)	1,105,936 (△15.9)	2,321,998 (△ 8.9)
うち個人保険分野	(百万円)	1,766,829 (△ 8.1)	762,170 (△18.4)	1,602,619 (△ 9.3)
うち団体保険分野	(百万円)	747,705 (△17.7)	327,355 (△10.0)	685,792 (△ 8.3)
うち第一フロンティア生命	(百万円)	988,874 (△47.2)	637,363 (+17.9)	1,607,943 (+62.6)
うちプロテクティブ	(百万円)	623,631 (+10.2)	302,516 (+ 9.1)	605,470 (△ 2.9)
うちTAL	(百万円)	279,138 (+ 7.1)	158,411 (+23.7)	284,347 (+ 1.9)
保有契約高(国内グループ生保合算値)	(百万円)	127,524,320 (△ 3.0)	124,975,063 (△ 3.0)	122,152,286 (△ 4.2)
うち第一生命	(百万円)	120,059,784 (△ 3.7)	116,915,195 (△ 4.2)	113,813,427 (△ 5.2)
解約・失効年換算保険料(第一生命)	(百万円)	68,832 (△ 5.4)	34,695 (+ 1.7)	70,019 (+ 1.7)

※()内は前年同期比増減率

(注)1. グループとは第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命、プロテクティブ、TAL、第一生命ベトナムの6社。国内グループ生保とは第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命の3社

2. プロテクティブ及び第一生命ベトナムの決算日は12月31日

3. 新契約年換算保険料(以下、新契約ANP)及び保有契約年換算保険料(以下、保有契約ANP)のうち、プロテクティブは損害保険事業、TALは団体保険を含む

プロテクティブの損害保険事業	:2017年3月期	新契約ANP 9,430百万円	保有契約ANP 31,839百万円
	2018年3月期	新契約ANP 4,927百万円	保有契約ANP 34,891百万円
	2018年3月期	新契約ANP 9,753百万円	保有契約ANP 34,480百万円
TALの団体保険	:2017年3月期	新契約ANP 526百万円	保有契約ANP 134,183百万円
	2018年3月期	新契約ANP 12,833百万円	保有契約ANP 150,741百万円
	2018年3月期	新契約ANP 11,148百万円	保有契約ANP 137,968百万円

※TALの新契約ANPには、既契約における保険料改定等に伴う年換算保険料の増減を含む

4. 保険料等収入のうち個人保険分野は個人保険+個人年金、団体保険分野は団体保険+団体年金の合計保険料(再保険収入は含まない)

5. 保有契約高、解約・失効年換算保険料は個人保険+個人年金保険

6. 解約・失効は、失効後復活契約を失効と相殺せずに算出、「減額」は含まない。

②資産の状況等

		2017年3月末	2017年9月末	2018年3月末
連結総資産	(億円)	519,858 (+ 4.1)	535,887 (+ 7.7)	536,030 (+ 3.1)
連結実質純資産額	(億円)	99,400 (△ 2.8)	105,395 (+ 1.4)	108,699 (+ 9.4)
連結ソルベンシー・マージン比率	(%)	749.2	795.1	838.3

※()内は前年同期比増減率

③基礎利益・順ざや・利回り等

		2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期予想
グループ基礎利益	(百万円)	528,668 (△ 5.1)	573,806 (+ 8.5)	5,400億円程度
うち 国内グループ生保合算値	(百万円)	443,032 (△ 7.8)	489,400 (+ 10.5)	4,400億円程度
うち 第一生命	(百万円)	391,650 (△ 15.7)	429,057 (+ 9.6)	3,900億円程度
うち 第一フロンティア生命	(百万円)	57,248 (+144.4)	68,459 (+19.6)	500億円程度
うち ネオファースト生命	(百万円)	△ 5,866 (△ 17.8)	△ 8,115 (+38.3)	マイナスの見込み
うち 海外グループ生保合算値	(百万円)	84,101 (+ 1.7)	79,776 (△ 5.1)	横ばいの見込み
うち プロテクティブ	(百万円)	58,637 (+ 0.4)	57,278 (△ 2.3)	横ばいの見込み
うち TAL	(百万円)	22,101 (+ 6.3)	21,390 (△ 3.2)	横ばいの見込み
うち その他(アセットマネジメント事業等)	(百万円)	1,535 (-)	4,629 (+201.5)	横ばいの見込み

(注)、グループ基礎利益は、第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命の基礎利益、プロテクティブの税引前営業利益、TALの基礎的な利益(税引前換算)、第一生命ベトナムの税引前利益、関連会社の持分利益(税引前換算)等を合算し、グループの内部取引の一部を相殺した数値を掲載。

※()内は前年同期比増減率

		2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期予想
順ざや額(国内グループ生保合算値)	(億円)	883 (△ 180)	1,472 (+ 589)	縮小の見込み
うち 第一生命	(億円)	721 (△ 256)	1,367 (+ 645)	縮小の見込み
うち 第一フロンティア生命	(億円)	161 (+ 76)	105 (△ 55)	横ばいの見込み
うち ネオファースト生命	(億円)	△ 0 (△ 0)	△ 0 (△ 0)	横ばいの見込み

(注)、負値の場合は逆ざや額

※()内は前年同期比増減率

		2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期予想
基礎利益上の運用収支等の利回り(第一生命)	(%)	2.59	2.76	低下の見込み
運用利回り(一般勘定)(第一生命)	(%)	2.21	2.46	減少見込み
平均予定利率(第一生命)	(%)	2.34	2.28	低下の見込み

④基礎利益の内訳
(国内グループ生保合算値)

		2017年3月期	2018年3月期
基礎利益	(百万円)	443,032 (△ 37,660)	489,400 (+ 46,368)
順ざや額	(百万円)	88,340 (△ 18,061)	147,298 (+ 58,958)
最低保証に係る責任準備金の増減による影響	(百万円)	△ 2,816 (+ 28,948)	4,764 (+ 7,581)
保険関係損益	(百万円)	357,507 (△ 48,547)	337,336 (△ 20,170)

(注) 最低保証に係る責任準備金を繰り入れた場合は基礎利益を減少させる要因になり、戻し入れた場合は基礎利益を増加させる要因になる

* ()内は前年同期比増減実額

(第一生命)

		2017年3月期	2018年3月期
基礎利益	(百万円)	391,650 (△ 72,750)	429,057 (+ 37,407)
順ざや額	(百万円)	72,186 (△ 25,689)	136,761 (+ 64,574)
最低保証に係る責任準備金の増減による影響	(百万円)	87 (+ 288)	112 (+ 24)
保険関係損益	(百万円)	319,375 (△ 47,348)	292,183 (△ 27,191)
うち危険差益	(百万円)	321,662 (△ 3,111)	279,049 (△ 42,612)

* ()内は前年同期比増減実額

⑤準備金(国内グループ生保合算値)

		2017年3月末	2017年9月末	2018年3月末
責任準備金(除く危険準備金)	(百万円)	35,951,148 (+ 716,060)	36,494,913 (+ 1,144,510)	36,799,801 (+ 848,652)
うち一般勘定(除く危険準備金)	(百万円)	32,751,048 (+ 625,344)	33,184,564 (+ 900,299)	33,572,321 (+ 821,272)
うち特別勘定(除く危険準備金)	(百万円)	3,200,100 (+ 90,715)	3,310,349 (+ 244,211)	3,227,480 (+ 27,379)
価格変動準備金	(百万円)	174,677 (+ 19,430)	184,594 (+ 19,846)	195,797 (+ 21,120)
危険準備金	(百万円)	709,561 (+ 18,394)	717,301 (+ 17,360)	721,146 (+ 11,585)
危険準備積立金	(百万円)	0 (△ 43,120)	0 (△ 43,120)	0 (-)
価格変動積立金	(百万円)	0 (△ 65,000)	0 (△ 65,000)	0 (-)

(注) 危険準備積立金・価格変動積立金は、剰余金処分後の残高を記載

* ()内は前年同期比増減実額

⑥含み損益

		2017年3月末	2017年9月末	2018年3月末
有価証券	(百万円)	5,491,034 (△ 720,976)	5,877,638 (△ 134,460)	5,827,198 (+ 336,164)
うち国内株式	(百万円)	1,687,866 (+ 375,060)	1,904,353 (+ 673,479)	2,015,937 (+ 328,071)
うち国内債券	(百万円)	3,243,987 (△ 779,001)	3,183,161 (△ 958,397)	3,229,613 (△ 14,373)
うち外国証券	(百万円)	520,067 (△ 330,768)	745,217 (+ 107,916)	555,139 (+ 35,072)
不動産	(百万円)	166,723 (+ 36,381)	187,353 (+ 50,663)	218,216 (+ 51,492)
その他共計	(百万円)	5,637,050 (△ 697,597)	6,040,718 (△ 130,632)	6,049,166 (+ 412,115)

(注) 1. 不動産の含み損益は国内不動産(含む借地権)を対象とし、再評価前の水準

* ()内は前年同期比増減実額。但し2017年3月末の前年同期比増減額は、HD化による影響を除いた数値

2. 第一生命の実績を掲載

⑦運用実績

		2017年度実績
国内株式	(百万円)	222,022
国内債券	(百万円)	△ 138,814
外国株式等	(百万円)	170,036
外国債券	(百万円)	260,342
不動産	(百万円)	△ 7,094

(注) 1. 貸借対照表価額ベース

2. 第一生命の実績を掲載

⑧資産の含み損益がゼロになる水準

		2018年3月末時点
国内株式(日経平均)	(円)	9,500
国内株式(TOPIX)	(ポイント)	760
国内債券	(%)	1.2
外国証券	(円)	103

(注) 1. 株式は日経平均およびTOPIXに連動させ、株式の評価基準にあわせて算出

2. 国内債券は10年新発国債利回り換算し、小数点第1位まで算出

3. 外国証券はドル円換算にて算出

4. 第一生命の水準を掲載

⑨2019年3月期の業績見通し

		2019年3月期予想
連結保険料等収入		減少の見込み
グループ基礎利益		5,400億円程度
保有契約年換算保険料(グループ)		増加の見込み
保有契約高(国内グループ生保合算値)		減少の見込み

⑩社員数

		2017年3月末	2017年9月末	2018年3月末
営業職	(人)	45,080 (+ 4.9)	45,638 (+ 2.2)	45,013 (△ 0.1)
内勤職	(人)	11,158 (△ 4.1)	11,628 (△ 3.6)	11,165 (+ 0.1)

(注) 1. 社員数(営業職)には、当社と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしているもので、その他補助的業務に従事するものを含む

* ()内は前年同期比増減率

2. 第一生命の実績を掲載

⑪配当の状況(2018年3月期決算に基づく配当準備金繰入額)

		2017年3月期決算に基づく 配当準備金繰入額	2018年3月期決算に基づく 配当準備金繰入額
個人保険	(百万円)	10,550 (△ 35.8)	19,293 (+ 82.9)
個人年金	(百万円)	2,327 (+ 65.8)	0 (△ 100.0)
団体保険	(百万円)	63,675 (+ 2.1)	65,784 (+ 3.3)
団体年金	(百万円)	6,841 (△ 56.4)	8,270 (+ 20.9)

* ()内は前年同期比増減率

⑫金融機関窓販の状況(第一生命と第一フロンティア生命の合算値)

		2017年3月期	2018年3月期
変額年金保険	新契約件数	(件) 52,613 (△ 60.4)	30,858 (△ 41.3)
	金額(収入保険料)	(百万円) 274,341 (△ 64.6)	154,173 (△ 43.8)
定額年金保険	新契約件数	(件) 34,665 (+ 168.5)	66,665 (+ 92.3)
	金額(収入保険料)	(百万円) 214,315 (+ 249.9)	349,238 (+ 63.0)

(注). 金融機関とは銀行、証券会社、信託銀行、信用金庫

* ()内は前年同期比増減率

		2017年3月期	2018年3月期
変額一時払 終身保険	新契約件数	(件) 14,940 (△ 62.0)	7,701 (△ 48.5)
	金額(収入保険料)	(百万円) 126,855 (△ 55.4)	74,515 (△ 41.3)
定額一時払 終身保険	新契約件数	(件) 31,910 (△ 57.3)	74,376 (+ 133.1)
	金額(収入保険料)	(百万円) 233,420 (△ 57.6)	558,105 (+ 139.1)

(注). 金融機関とは銀行、証券会社、信託銀行、信用金庫

* ()内は前年同期比増減率

その他質問項目(2018年3月期)

○変額年金保険等の最低保証に係る一般勘定の責任準備金繰入・戻入の状況

			2017年3月期	2017年9月期	2018年3月期
変額年金保険等の 最低保証に係る 一般勘定の 責任準備金繰入・戻入	第一生命	(億円)	△ 0	△ 1	△ 1
	第一フロンティア生命	(億円)	29	△ 145	△ 46
	第一、第一フロンティア合算値	(億円)	28	△ 146	△ 47

(注) 繰入額についてはプラスで表示、戻入額についてはマイナスで表示